

民間活力によって整備された公園内コミュニティ空間の冬季利用実態に関する研究
～名城公園を事例として～

EC14029 高橋 稜平

1. 研究の目的と背景

公園という場所は、時代と共に変化していく中で私たちの生活の中で大切な場所の1つである。子供が遊ぶ用途以外にも公園には様々な種類が存在し、ランニング、散歩、ベンチに座って読書など、私たちが落ち着いて過ごす事のできる公共スペースである。名古屋市ではパークマネジメントプランが制定されており、名古屋市の公園19公園が対象となっている。このパークマネジメントプランのあり方として従来の行政主体の運営方針から一変して、民間事業者へ委託して市民に多様なサービスを還元し公園経営の成果を市民が享受できるように管理運営を変革しようと計画している。パークマネジメントプランに記載されている公園を調査した結果、維持管理、景観など良い状態でないのが現状である。名古屋市の魅力度低下を危惧し、私たちの身近にある公園のコミュニティ空間に着目した。そこで魅力ある空間として着目したのが民間活力によって整備された名城公園にある「tonarino」である。近年、日本ではP-PFIによって行政が管轄していた公園を民間事業者へ委託・完全委託をして飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置をしている。しかし、公園という場所は他の商業施設と異なり外にある公共地盤であるため冬季において足運びが悪くなるのではないかと懸念が生じる。冬季において集客が見込めなければ民間活力によって整備されてもP-PFI事業としての効果が薄れてしまう。そういった不安材料をなくすべく、実際に民間によって整備された名城公園 Tonarino を事例にあげ、現地調査を行い現地調査で行ったデータを元に分析しその分析結果をもとに冬季の利用実態を明らかにし、どのような利用がされているかを元に問題点と向き合っていく。本研究で重要視しているのは、テーマでも上げている「コミュニティ空間」で、この空間というのは民間整備された商業施設の他の空間(広場など)である。その空間がどのような利用をされていてどのような効果を生み出しているかを明らかにする。収容施設とコミュニティ空間と既存である公園が冬季においてどのような効果をもたらしているかを明らかにし、今後の公園整備における新たな空間づくりの発見に繋がることができると考えている。

2. 研究の枠組み

2.1 公園の位置づけ

公園は、人々のレクリエーションの空間、良好な都市景観の形成、都市環境の改善、都市の防災性の向上、生物多様性の確保、豊かな地域づくりに資する交流の空間の提供である。⁽³⁾
公園の種別としては総合公園に位置する。

2.2 研究対象と研究手順

本研究では、名古屋市北区にある名城公園内の民間事業者により整備された「tonarino」を研究対象とする。プレ調査としては名古屋市のパークマネジメントプランに制定されている公園から範囲を絞って11公園を調査した。Tonarino において空間の利用実態を調査するために現地調査を行った。研究手順としては現地に行き利用実態調査を行い、現地調査を元に調査結果をデータ化・分析を行い、コミュニティ空間においてどのような利用実態がされているかを分析する。

2.3 研究対象の概要

1) 研究対象と現状

名古屋市北区に位置する名城公園の中に2017年に建設された商業施設「tonarino」を対象とする。Tonarinoは2017年4月27日に「名城公園」北園に誕生した、名古屋初の公園商業施設。歴史建造物名古屋城の近くに位置し最寄り駅である名城公園駅からも近く、近隣には愛知学院大学、病院、住宅街に囲まれている。

2)名城公園の位置づけ

名城公園とは、名古屋城を中心とした郭内にいくつかある公園の総称である。事業展開プランの中で、公園の面積規模や公園利用者の広がり considering 3つに分類された公園体系のうち、「広域の拠点となる公園」として位置付けられている。

3)コミュニティ空間の定義

公的基礎地盤である tonarino 敷地範囲内の一部をコミュニティ空間として取り扱っている。本研究では以下の図のように示している。赤枠が Tonarino の敷地内で緑枠がコミュニティ空間としている。



図-1 コミュニティ空間 (注-1)

3 調査データ内容

3.1 現地調査

Tonarino において現地調査を行った。現地調査結果を以下のようにまとめた。

下記の表はコミュニティ空間を利用した人の利用詳細になっている。

表-1 9:00-11:00

開始時間	終了時間	滞在時間	年齢	男	女	子供(小学生以下)	備考
9:00	9:40	0:40	30	0	1	2	散歩
9:15	9:40	0:25	30	1	1	0	スタバ階段
9:32	9:50	0:18	30	1	1	0	スタバ階段
9:45	10:23	0:38	30	0	1	2	散歩
10:04	11:00	0:56	30	0	1	2	散歩、広場
10:10	10:42	0:32	30	1	1	0	スタバテラス
10:22	10:24	0:02	50	1	1	0	犬散歩、写真
10:31	10:51	0:20	30	1	0	0	スタバ、ベンチ、スマホ操作
10:38	10:51	0:13	30	0	1	1	散歩 広場
10:30	11:16	0:46	50	1	0	0	スタバ、階段、スマホ
10:40	11:20	0:40	20	1	1	1	階段上、散歩
10:50	11:16	0:26	30	0	1	2	階段、着座

表-2 11:00-13:00

開始時間	終了時間	滞在時間	年齢	男	女	子供(小学生以下)	備考
11:00	11:46	0:46	40	0	1	2	広場でスケボ
11:00	12:13	1:13	60	1	1	0	スタバ花写真
11:00	11:20	0:20	30	0	1	1	階段散歩
11:13	11:23	0:10	30	1	0	1	階段散歩
11:16	11:34	0:18	30	0	2	0	散歩
11:20	11:43	0:23	50	0	2	0	ベンチ着座
11:25	11:42	0:00	30	1	1	1	dean→階段散歩
11:27	11:35	0:08	30	1	0	1	自転車→ベンチ着座
11:27	11:35	0:08	30	0	2	2	階段 散歩
11:30	11:50	0:20	30	1	1	1	広場 遊び
11:30	12:32	1:02	30	1	1	2	dean→階段食事
11:30	12:40	1:10	30	1	1	0	ベンチ→GARF
11:31	11:51	0:20	30	1	0	0	スタバベンチ(スマホ)
11:35	11:40	0:05	30	1	1	1	写真
11:48	11:58	0:10	30	1	1	1	階段着座
11:49	12:15	0:26	40	0	1	2	階段遊び
12:00	12:40	0:40	30	1	1	0	写真→dean→階段
12:00	12:35	0:35	30	0	3	3	スタバ談笑
12:00	12:30	0:30	30	0	1	2	広場(ロープスケート)
12:02	12:20	0:18	30	1	0	1	写真→階段散歩
12:05	12:06	0:01	50	1	1	0	写真
12:20	12:37	0:17	20	1	1	0	dean→階段
12:28	12:38	0:10	40	1	1	1	広場遊び
12:44	12:45	0:01	20/50	0	2	0	犬、写真
12:30	13:17	0:47	60	1	1	0	dean→階段
12:50	13:19	0:29	20	1	0	0	スタバベンチ
12:58	13:06	0:08	40	1	1	0	犬、スタバ階段
12:59	13:05	0:06	30	1	1	1	待ち合わせ、広場
12:50	13:03	0:13	30	2	0	0	階段、ストレッチ(ランニングウェア)
12:56	12:59	0:03	30	1	0	0	自販機→階段(通話)
12:18	12:50	0:32	40	1	1	1	階段(散歩)
12:00	15:02	3:02	30	0	3	5	階段食事

表-3 13:00-15:00

開始時間	終了時間	滞在時間	年齢	男	女	子供(小学生以下)	備考
13:00	13:31	0:31	30	1	1	1	階段散歩
13:00	13:23	0:23	30	1	1	1	階段散歩→スタバ
13:01	13:03	0:02	30	1	1	1	花鑑賞
13:00	13:50	0:50	40	1	1	3	スタバ階段散歩
13:04	13:08	0:04	50	1	0	0	ベンチ(ランニングウェア)
13:09	13:31	0:22	20	1	0	0	ベンチ(スマホ)
13:27	13:29	0:02	60	1	1	0	花鑑賞
13:40	13:55	0:15	50	1	1	2	ベンチ着座
13:43	13:48	0:05	60	0	1	0	花鑑賞
13:45	14:23	0:38	40	1	1	2	階段食事
13:50	14:12	0:22	20	0	2	0	スタバ→写真
13:50	14:20	0:30	30	0	2	3	dean→階段食事
13:50	14:30	0:40	30	1	0	1	スタバベンチ
14:00	14:03	0:03	70	1	1	0	ベンチ(談笑)
14:00	14:19	0:19	60	1	1	0	ベンチ(スマホ)→写真
14:00	15:00	1:00	50/20	1	3	0	GARF→階段写真
14:09	14:13	0:04	60/20	1	2	0	犬、ベンチ
14:10	15:42	1:32	20	0	2	0	スタバ階段散歩
14:20	14:29	0:09	60	1	0	0	写真階段
14:25	14:31	0:06	30	0	1	1	階段食事
14:26	14:32	0:06	30	0	1	2	ベンチ
14:35	15:01	0:26	30	1	1	1	スタバ階段散歩→花
14:40	15:21	0:41	30	0	3	0	写真→スタバ
14:40	14:47	0:07	20	0	2	0	自販機→階段
14:43			30	1	0	1	スケボ
14:45	15:27	0:42	30	0	2	2	階段散歩
14:52	15:28	0:36	20	1	1	1	広場遊び→dean
14:53	15:07	0:14	20	0	2	0	dean→ベンチ食事
14:50	15:04	0:14	50	2	0	0	スタバベンチ食事

表-4 15:00-17:00

開始時間	終了時間	滞在時間	年齢	男	女	子供(小学生以下)	備考
15:00	15:24	0:24	30	1	1	2	dean→階段散歩
15:15	15:25	0:10	40	1	0	2	dean→階段散歩
15:25	15:36	0:11	20	0	1	0	スタバベンチ食事
15:26	15:37	0:11	30	1	1	1	広場遊び
15:30	15:40	0:10	50	1	0	0	ベンチ(ランニングウェア)
15:39	16:44	1:05	20	2	3	0	ベンチ
15:50	16:22	0:32	30	0	2	2	スタバ階段
16:10			30	0	1	3	階段
16:20	16:41	0:21	30	1	1	1	階段散歩
16:20			20	1	1	0	2階写真→dean

3.2 天候データ

現地調査日における天候データを右図にまとめた。当日の最低気温は 6.9°C で最高気温は 11.8°C となった。

3.3 利用人数

Tonarino における全体の利用人数及びコミュニティ空間における利用人数を下図にまとめた。

表-6 全体利用者

時間	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	合計
人数	33	106	84	36	259
割合	13%	41%	32%	14%	100%
気温	6.3	9.1	11.1	11.6	

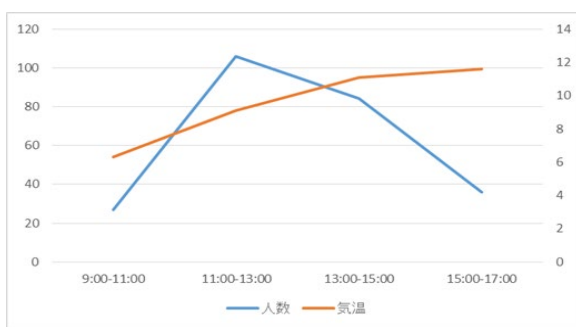


図-2 全体利用者

左図のグラフは tonarino における全体利用者と気温を表した物になる。全体の利用者は 259 人で一番多い時間帯は 11:00-13:00 の 106 人であった。気温が上がるにつれて利用者も増加したが、最高気温に到達する時間には減少している事が判明した。右図はコミュニティ空間においての利用・非利用者について表したグラフである、tonarino 利用者の 84% の人がコミュニティ空間を利用している事が明らかになった。

3.4 コミュニティ空間の利用者層

図-4 ではコミュニティ空間において小学生以下の子供を連れて訪れているかを示した図になっている。コミュニティ空間利用者の 54%、45 組の人が家族で子供を連れてきていることが判明した。

このことから、図-2 の利用者の時間推移のグラフで気温とは関係なく日没時間が近づいたために、利用者が減少している事に繋がった。

3.5 コミュニティ空間利用者詳細

図-5 ではコミュニティ空間における利用内容を分類し時間帯ごとに人数をまとめた。一番多い利用内容は階段における着座行為であった。

3.6 階段及びベンチの利用者層

表-9 の分類分けにより階段及びベンチの利用者層を図-6,7 に表した。結果階段利用者の 57% は子連れであった事に対して、ベンチ利用者は 24% が子連れであるという結果になった。この要因として考えられる

表-5 天気図 (注-2)

名古屋 2020年12月29日 (1時間ごとの値)

時	気圧(hPa)		降水量(mm)	気温(°C)	露点温度(°C)	蒸気圧(hPa)	湿度(%)	風向・風速(m/s)		日照時間(h)	全天日射量(MJ/m²)	雪(cm)		天気	曇量	視程(km)
	現地	海面						風速	風向			降雪	種雪			
9	1016.6	1023.6	--	6.3	1.6	6.9	72	2.5	北	1.0	0.76	--	--	Ⓜ	10	200
10	1016.0	1023.0	--	7.7	2.4	7.3	69	2.4	北北西	0.8	1.04	--	--			
11	1014.6	1021.5	--	9.1	2.7	7.4	64	2.6	北	1.0	1.41	--	--			
12	1012.6	1019.5	--	10.3	2.4	7.3	58	2.5	北西	0.8	1.34	--	--	Ⓜ	10	150
13	1011.2	1018.0	--	11.1	1.9	7.0	53	2.1	北西	0.0	1.05	--	--			
14	1010.1	1016.9	--	11.8	2.8	7.5	54	2.0	西北西	0.1	0.95	--	--			
15	1009.5	1016.3	--	11.6	2.6	7.4	54	1.3	南西	0.0	0.53	--	--	Ⓞ	10-	200
16	1009.7	1016.5	--	11.2	3.0	7.6	57	1.4	西	0.2	0.38	--	--			
17	1009.1	1016.0	--	10.2	3.7	8.0	64	1.0	東	0.3	0.12	--	--			

表-7 コミュニティ空間利用者

時間	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	合計	割合
利用者	27	85	76	30	218	84%
非利用者	6	21	8	6	41	16%

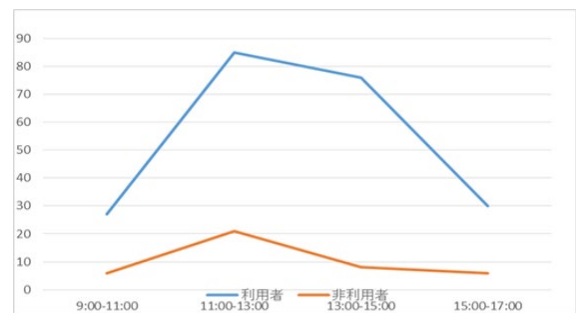


図-3 コミュニティ空間利用者

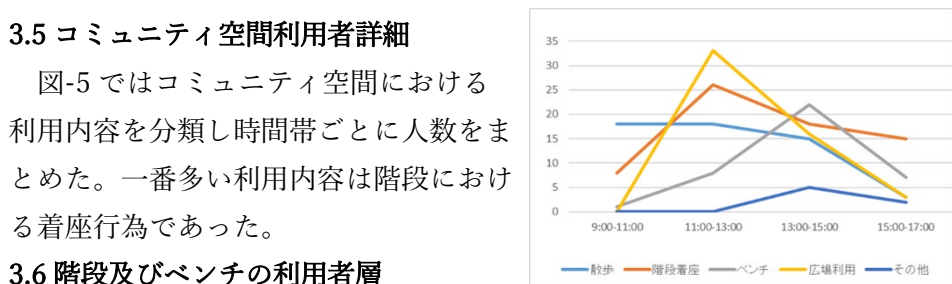


図-5 利用内容

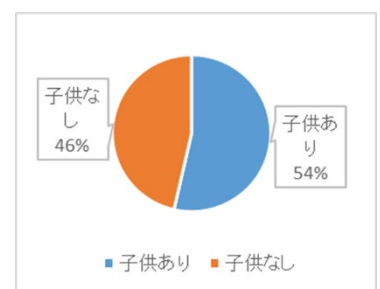


図-4 利用者層の割合

表-8 子供の有無

	組数	割合
子供あり	45	54
子供なし	39	39
合計	84	100

表-9 利用内容

	9:00-11:00	11:00-13:00	13:00-15:00	15:00-17:00	詳細合計	割合
散歩	18	18	15	3	54	25%
階段着座	8	26	19	15	67	31%
ベンチ	1	8	22	7	38	17%
広場利用	0	33	16	3	52	24%
その他	0	0	5	2	7	3%
時間別合計	27	85	76	30	218	100%

のが複数人で座れる階段に対して、座れる人数が固定されているベンチでは家族層は座らないという事が判明した。

3.7 階段・ベンチにおける利用詳細

表-11,12 は階段・ベンチにおける利用内容である。階段においての利用内容は74%が飲食による利用であった。ベンチにおいての飲食は50%以下で階段とベンチにおいて利用内容に違いがある事が判明した。

利用用途は様々なスマホ操作、会話、休憩などに分かれていた。施設利用者の他にランニングのついでにコミュニティ空間を訪れて飲食や休憩などを行っていた。

4.1 結果

利用者の層は54%が家族連れできている事が判明した。普段昇降用で利用される階段がベンチの役目や、遊び場など多様な用途で使われている事が判明した。

冬場であるからこそ、気温が一番高い時間よりも日照時間が長い時間、尚且つ日陰でない事から階段での利用者が多い傾向にあった。

4.2 考察

Tonarino における利用者は家族連れが半分以上を占めており、コミュニティ空間においても広場利用や階段など多くの人達が利用していた結果となった。コミュニティ空間をつくる上で、開放的な広場が重要である事が研究を通して分かった。冬季においても利用される空間は日差しが当たる空間があり、開放的である事が条件であった。広場がある事により既存の公園部分と共有でき、名城公園利用者と tonarino 利用者が分かれることなく一緒に空間を共有できることが判明された。

5.参考文献

- 1) <https://www.google.co.jp/maps/@35.2186789,137.0249658,13z?hl=ja>,
- 2) 各種データ・資料:過去の気象データ検索,気象庁
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/hourly_s1.php?prec_no=51&block_no=47636&year=2020&month=12&day=29&view=,2020/12/29
- 3) 公募設置管理制度 (Park-PFI) について - 国土交通省 (2020-02-12)
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanminrenkei/content/001329492.pdf,2021/01/11>

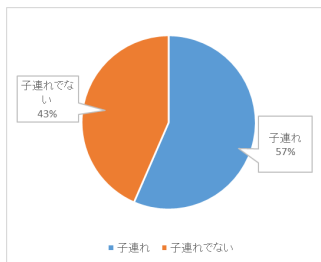


図-5 階段 割合

表-10 階段子供有無

	総数	割合
子連れ	13	57%
子連れでない	10	37%
合計	23	85%

表-11 階段詳細

備考
スタバ階段
スタバ→階段
スタバ、階段、スマホ
階段、着座
備考
dean→階段食事
階段着座
写真→dean→階段
dean→階段
dean→階段
犬、スタバ→階段
階段、ストレッチ(ランニングウェア)
自販機→階段(通話)
階段食事
備考
階段食事
dean→階段食事
スタバ→階段飲食
階段食事
スタバ→階段飲食→花
自販機→階段

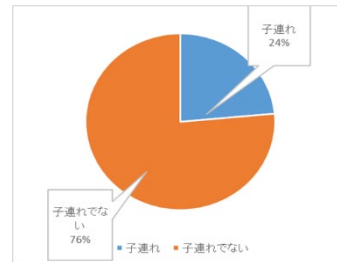


図-6 ベンチ割合

表-11 ベンチ子供有無

	総数	割合
子連れ	4	24%
子連れでない	13	76%
合計	17	100%

表-12 ベンチ詳細

備考
スタバ、ベンチ、スマホ操作
備考
自転車→ベンチ着座
ベンチ→GARB
スタバ→ベンチ(スマホ)
スタバ→ベンチ
備考
ベンチ(ランニングウェア)
ベンチ(スマホ)
ベンチ着座
スタバ→ベンチ
ベンチ(談笑)
ベンチ(スマホ)→写真
犬、ベンチ
ベンチ
dean→ベンチ飲食
スタバ→ベンチ飲食
備考
スタバ→ベンチ飲食
ベンチ(ランニングウェア)
ベンチ

東海環状自動車道開通が地域に与える影響に関する研究
 ～物流企業の立地と近隣地域に着目して～

EC17001 赤塚隆之介

1. 研究の背景と目的

東海環状自動車道は中京圏を結ぶ初の高速道路として 2005 年 3 月 19 日に東周り(関広見 IC～豊田東 JCT 区間)が開通した。開通後新たな企業の進出や雇用の創出が期待され、東海環状自動車道は今後物流の要衝になると国土交通省中部整備局岐阜国道事務所のホームページにも記述されている。このように高速道路開通は企業の発展に効果をもたらす。しかし、一方で高速道路開通により、近隣地域の急激な環境の変化が住民生活に影響を与える可能性があると考えられる。そこで本研究では、物流企業の立地に着目し、東周り開通前後の物流企業の立地状況の変化、国土数値情報による土地利用の変化を分析することで、東海環状自動車道が物流企業に与えた効果を明らかにする。そして、東海環状自動車道開通によって近隣地域の環境の変化が住民生活に与えた影響を明らかにすることを目的とする。これらを明らかにすることで今後、高速道路開通に関わる課題に役立つものと考えられる。

2. 研究の枠組み

2.1 研究対象地域の概要



図 1. 東海環状自動車道全体図

図 1 は東海環状自動車道の全体図と開通経過状況を記したものである。本研究では、東海環状自動車道開通前後の物流企業の立地状況の変化を調査するため、2005 年 3 月 19 日に開通した東海環状自動車道東周りを対象に調査を行う。

2.2 物流企業と近隣地域の定義

本研究で近隣地域とは、東海環状自動車道東周りに隣接している市(豊田市、瀬戸市、多治見市、土岐市、関市、美濃加茂市、可児市)のこととする。

本研究で「物流企業」とは、近隣地域で定義した 7 つの市のタウンページに運送と記載されているものを対象とする。

2.3 研究方法

1) 東海環状自動車道が物流企業に与えた効果を調査するために、開通済みである東海環状道路東周りの開通前後の物流企業の立地の経年変化を分析する。2005 年に東周りが開通したため、前後 5 年間の 2001 年～2010 年の 10 年間を分析の対象とした。物流企業のデータはタウンページ(冊子)により集めた住所データを元に活用した。住所データを元に GIS のアドレスマッチングを活用し企業の立地状況の経年変化を分析した。

2) 東海環状自動車道東周りが開通したことにより住民の土地利用にも変化があると考え、土地利用の経年変化を調べることができる GIS(国土数値情報のデータ)を用いて分析を行う。GIS で使用したデータは国土数値情報ダウンロードサービスの土地利用細分メッシュデータを使用した。

3) 近隣地域に与えた影響を明らかにするために、森林地域、農業地域の指定された地域が企業の立地に影響を及ぼしたのかを GIS(国土数値情報のデータ)を用いて分析を行う。GIS で使用したデータは国土数値情報ダウンロードサービスの森林地域(ポリゴン)、農業地域(ポリゴン)を使用した。

2.4 東海環状自動車道の位置づけ

東海環状自動車道は、愛知県、岐阜県、三重県の3県に跨がる延長約153kmの高規格幹線道路である。中京圏の放射状道路ネットワークを環状道路で結び、広域ネットワークを構築することで、企業活動の向上、物流の効率化、観光活性化等の様々なストック効果が期待されている。

3. 東海環状自動車道が物流企業に与える効果

以下のデータは、タウンページの住所データを元に豊田市、瀬戸市、多治見市、土岐市、可児市、関市、美濃加茂市の2001年～2010年の物流企業の立地のデータをまとめたものである。(可児市、関市、美濃加茂市の2001年～2004年のデータは存在しなかった) インターネットのiタウンページでは最新年度のデータしか集められないため、過去の年度も調べられる冊子のタウンページを用いてデータ収集を行った。

3.1 東海環状自動車道東周り（2005年開通前後）の収集データ

表1. 企業の立地の総数

企業数	豊田	瀬戸	多治見	土岐	関	美濃加茂	可児
01~02	181	77	59	36	-	-	-
02~03	178	81	54	35	-	-	-
03~04	170	76	52	34	-	-	-
04~05	161	74	57	35	-	-	-
05~06	174	73	53	34	34	33	45
06~07	176	66	51	35	35	27	44
07~08	163	64	52	35	34	26	40
08~09	151	61	51	35	34	26	41
09~10	142	60	48	35	33	25	35
10~11	137	53	45	36	33	20	31

表2. 新規企業の立地の数

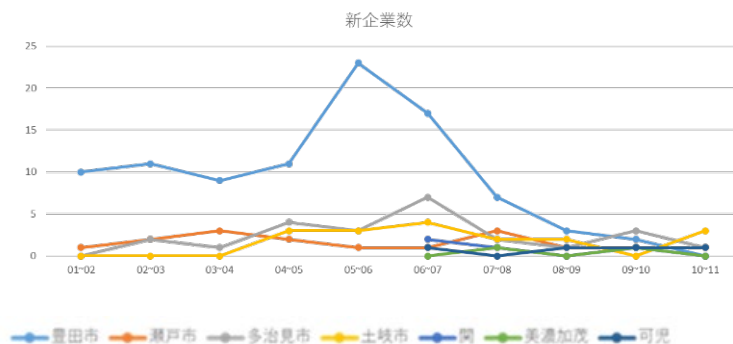
新	豊田	瀬戸	多治見	土岐市	関	美濃加茂	可児
01~02	10	1	0	0	-	-	-
02~03	11	2	2	0	-	-	-
03~04	9	3	1	0	-	-	-
04~05	11	2	4	3	-	-	-
05~06	23	1	3	3	0	0	0
06~07	17	1	7	4	2	0	1
07~08	7	3	2	2	1	1	0
08~09	3	1	1	2	0	0	1
09~10	2	1	3	0	1	1	1
10~11	0	1	1	3	0	0	1

表3. 企業の立地の総数 (iタウンページ)

	豊田	瀬戸	多治見	土岐	関	美濃加茂	可児
19~20	222	75	81	63	55	44	64

表1、表2より企業立地の総数が年々減少している事に対して新規企業の立地の数は増加している。これは冊子のタウンページの掲載数が減少している可能性が考えられる。実際に表3の最新年度のiタウンページのデータでは、冊子のタウンページで調べた2001～2010年の企業に対して記載された企業の総数が多い。

3.2 東海環状自動車道東周り開通前後のデータ比較



グラフ1. 新規企業の立地数

グラフ1は新規企業の立地の数を表している。東海環状自動車道東周りが開通した2005年の前後1年間で最も企業の立地の数が増加した。

3.3 物流企業の立地状況

以下の図は物流企業の立地データをGISのアドレスマッチングとタウンページ(冊子)の住所データを活用し地図上に記したものである。2001年から2010年の中でも最も東海環状自動車道東周り開通による企業立地への効果が大きかった2005年と2006年の2年間の経年変化のデータをピックアップした。

図2は2005年の物流企業の立地状況である。この図から東周りが開通したことにより豊田市で今まで企業が立地していなかった場所にも企業の立地が増えているという実績がみられた。なお、2005年は東周りが開通したとしであり、グラフ1でも記されている通り豊田市で最も企業が新しく立地された年でもある。図3は2006年の物流企業の立地状況である。この図から東海環状自動車道周辺に3件企業が新しく立地されている実績がみられた。関市、美濃加茂市、可児市は2004年以前のタウンページによる住所データが存在しなかったため、企業立地の経年変化の分析の結果が出せなかった。

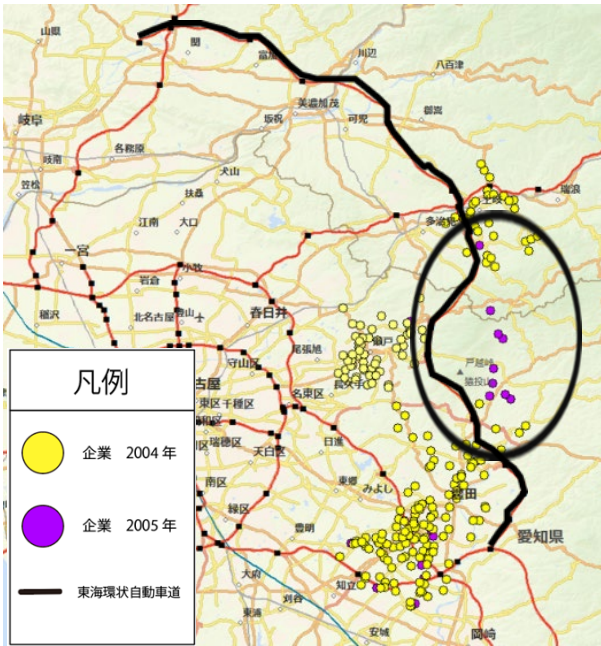


図 2. 2005 年物流企業の立地状況

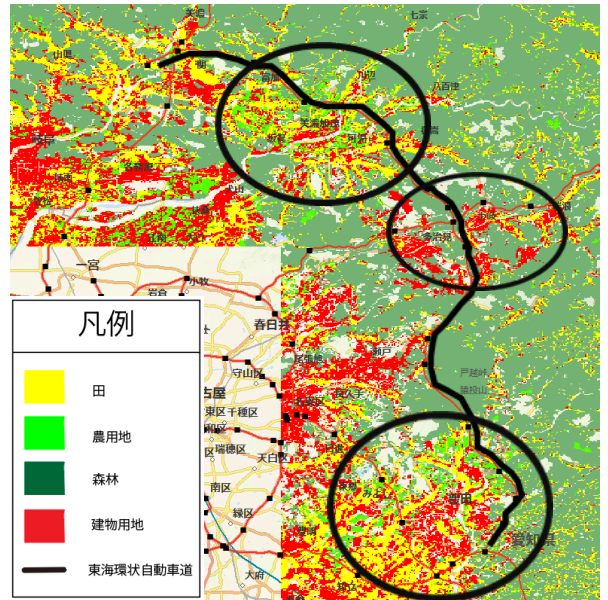


図 4. 1997 年度土地利用

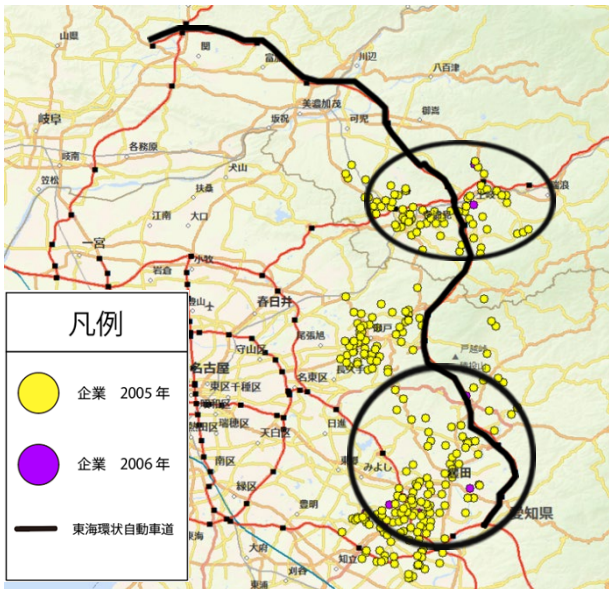


図 3. 2006 年物流企業の立地状況

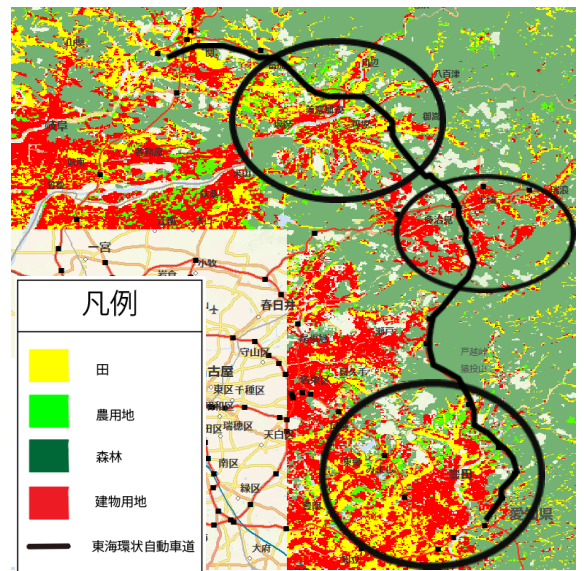


図 5. 2006 年度土地利用

4. 東海環状自動車道開通が近隣地域へ与える影響

4.1 東海環状自動車道が土地利用に与える影響

以下の図は GIS（国土数値情報のデータ）を利用し、土地利用の経年変化を分析した。

GIS で使用したデータは国土数値情報ダウンロードサービスの土地利用細分メッシュデータを使用した。年数は 1976 年度、1987 年度、平成 1991 年度、1997 年度、2006 年度、2009 年度、2014 年度、2016 年度があったが、東海環状自動車道東周り開通が 2005 年なので最も近い 2006 年度を基準に 1997 年度と 2016 年度の前後約 10 年間のデータを比較した。

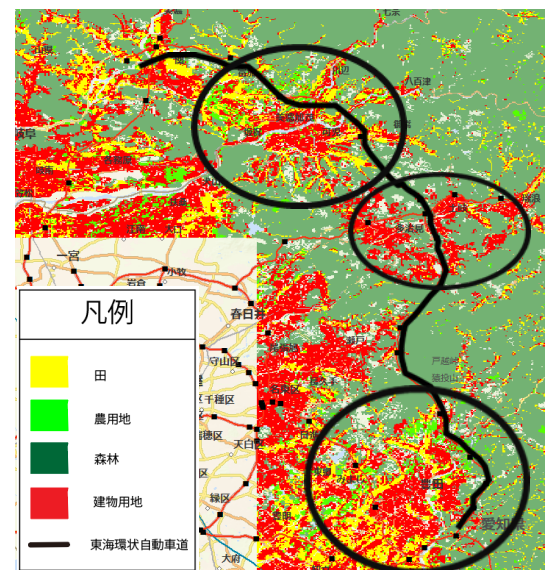


図 6. 2016 年度土地利用

東海環状自動車道東周り開通前の1997年度と開通直後の2006年度、その10年後の2016年度を比較すると建物用地の範囲が広がった。特に美濃加茂市、豊田市、土岐市、多治見市は農用地、田が建物用地に変化していることから東海環状自動車道開通の影響があると考えられる。

4.2 東海環状自動車道開通後の物森林地域への影響

森林地域とは、森林を維持するために定められた地域

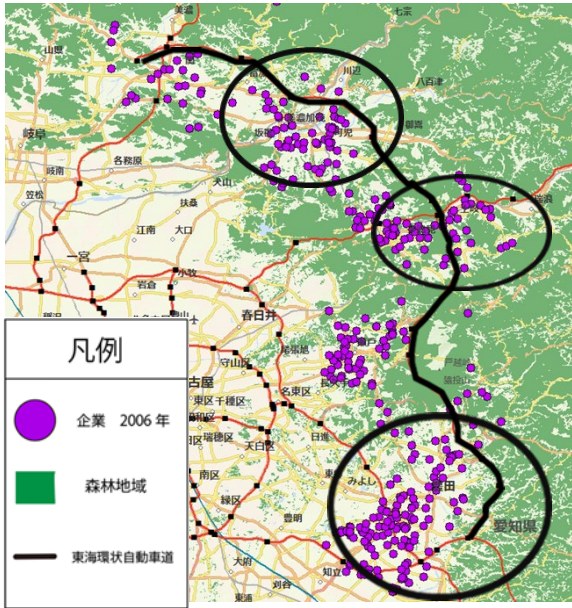


図7. 森林地域 2006年度

企業の立地は森林地域を避けているが土地利用で変化のあった箇所に森林地域が重なっている。

4.3 東海環状自動車道開通後の農業地域への影響

農業地域とは、農業を盛んにするために農用地として利用するために指定された地域

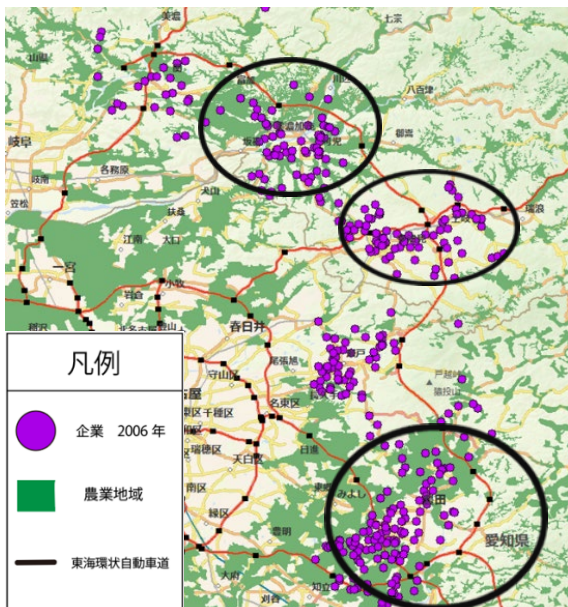


図8. 農業地域 2006年度

立地は指定された地域を避けているものの企業が立地している箇所もある。また、土地利用で建物用地に変化した農用地はこの農業地域に含まれていたと考えられる。

5. まとめ

本研究を通して、東海環状自動車道東周りが開通したことにより物流企業の立地に与えた影響は大きいと考える。グラフ1でも記した通り東周りの開通前後1年間が最も企業立地の増加に変化がみられた。本研究で行った物流企業の立地状況の調査では、東周り開通前後の年に既存の企業が立地していなかった土地に企業立地の増加、東海環状自動車道周辺に企業立地の増加などの実績が見られた。東周り開通前後の土地利用を比較すると、近隣地域で農用地、田が建物用地に変化していることが分かった。また、図3の企業の立地と図5の土地利用より物流企業の立地は建物用地に集中しやすいことがわかる。よって、建物用地の範囲が広がることは物流企業の立地促進につながると結論づけられる。東海環状自動車道が開通したことにより、近隣地域の建物用地に変化した箇所を森林地域、農業地域と見比べてみると約半分の範囲が建物用地へと変化した範囲と一致している。企業が立地していくために建物用地に土地利用が変化していくことはよいことだが、その反面で農業や森林を守るために指定された区域に配慮していくことも大事であると考えられる。

6. 参考文献

- 1) 国土交通省中部整備局岐阜国道事務所
2015年最終更新
<http://www.cbr.mlit.go.jp/gifu/works/tokaikanjo.html>
- 2) 国土数値情報ダウンロードサービス
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>
- 3) iタウンページ 2019年最終更新
<https://itp.ne.jp/>

With コロナ期における公園の利活用に関する研究
 ～羽島市の近隣公園に着目して～

EC17003 浅野 真士

1. 背景と目的

現在コロナ禍である。今回の新型コロナウイルスによって、公園の価値が再認識された。新型コロナウイルスが拡大する前の Before コロナと現在のような拡大している中での with コロナでは、公園の利用状況が変化した。遊びに行くなら屋内ではなく屋外を選ぶという意識から、公園を利用する人が増えた。また、現在、zoom など使ったテレワークなど試みて、テレワークの利便性が知れ渡り、それが今後にも使われる可能性が高いと考える。自宅などでテレワークが増えると健康、運動、気分転換や癒しなど求め、公園が活用される場面が増えていくと予想される。そこで、公園の活用に注目した。研究を通し、研究対象である公園の利用実態を知り、対象の公園が適しているかを考える。また、今後の公園に求められることが分かってくる。コロナ禍である現在に考える必要がある。対象の公園の利用実態、利用の変化について明確にすることを目的とする。

2. 研究の枠組み

2-1 研究対象

研究対象地は岐阜県羽島市にある 3 つの公園を選出した。岐阜県羽島市には 55 の公園が存在する。55 の公園の中で近隣公園である「平方第一公園」「コスモパーク羽島」「羽島中央公園」の 3 つに絞り研究対象地に設定した。この 3 つの近隣公園を比較して、公園緑地の利用実態に関する研究を行う。近隣公園を対象とした理由は、街区公園よりも規模が大きく、地区公園より規模が小さい公園であり、コロナ禍の状況から、散歩などの運動に最適な公園であるため近隣公園とした。また、羽島市には異なるタイプの 3 つの近隣公園が存在し、羽島市は観光地でなく普通の生活環境の中にあり、日常の公園の利用を調査できるため岐阜県羽島市にある公園を対象地とした。

表-1 羽島市にある公園の種類

大仏児童公園	街区公園	大西公園	街区公園	天王第一公園	街区公園	舟橋北公園	街区公園
駅前公園	街区公園	横手公園	街区公園	江吉良公園	街区公園	宮浦公園	街区公園
蒲池公園	街区公園	足近新田公園	街区公園	前谷公園	街区公園	舟橋東公園	街区公園
千代田公園	街区公園	足近新田公園	街区公園	正木中畑公園	街区公園	舟橋西公園	街区公園
出須賀公園	街区公園	島第一公園	街区公園	横手東公園	街区公園	江中公園	街区公園
浅平公園	街区公園	神楽公園	街区公園	下山さくら公園	街区公園	本郷公園	街区公園
外栗野公園	街区公園	島第二公園	街区公園	新井さくら公園	街区公園	大浦東公園	街区公園
外うら東公園	街区公園	外うら西公園	街区公園	川口第一公園	街区公園	千代田西公園	街区公園
間島西公園	街区公園	間島東公園	街区公園	間島北公園	街区公園	平方第一公園	近隣公園
宮西公園	街区公園	健康の森善意公園	街区公園	消防南公園	街区公園	羽島中央公園	近隣公園
須賀東山公園	街区公園	須賀中公園	街区公園	長間公園	街区公園	コスモパーク羽島	近隣公園
内栗野公園	街区公園	須賀西公園	街区公園	下中公園	街区公園		
天王第二公園	街区公園	須賀南公園	街区公園	西須賀公園	街区公園		
南扇公園	街区公園	島第三公園	街区公園	舟橋公園	街区公園		
浅平東公園	街区公園	平方第二公園	街区公園	川口公園	街区公園		

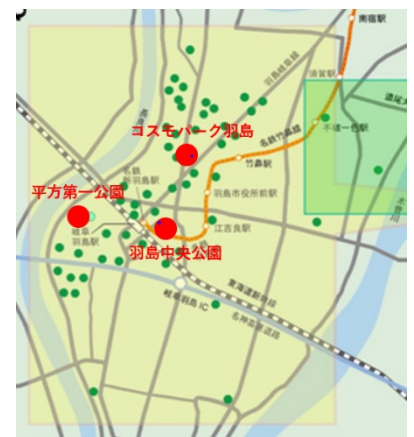


図-1 羽島市にある公園の位置

「平方第一公園」「コスモパーク羽島」「羽島中央公園」の 3 つの公園は、運動メインの新しい公園「平方第一公園」、運動メインの古い公園「羽島中央公園」、緑の多い公園「コスモパーク羽島」に分類される。

公園の大きさは、平方第一公園、羽島中央公園、コスモパーク羽島の順になっており、公園の立地は、平方第一公園は住宅が少なく、周りは田んぼが多い。羽島中央公園は、平方第一公園より住宅が多い。周りに住宅街が一番多く都市なのはコスモパーク羽島である。

	平方第一公園	羽島中央公園	コスモパーク羽島
住所	岐阜県羽島市福寿町平方10丁目	岐阜県羽島市舟橋町宮北8丁目	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内6-1
公園の特徴			
面積	11000㎡	18000㎡	20000㎡
公園の立地			

図-2 各公園の概要

2-2 研究方法

本研究では、公園緑地の利用実態に関する研究を行い、必要とされる公園とされるにはどうしたら良いかを明らかにする。また、コロナウイルスの影響によって、変わりつつある公園の利用の実態について知り、この先の変化するであろう公園の利用にあった公園にするにはどのようにすべきであるかを明らかにしようと考えている。主に、目視調査、アンケート調査を行い、対象の公園の利用実態、利用の変化について明確にする。

3. 調査

3-1 利用実態

目視調査では、現在の公園の利用状況について把握することを目的とする。平方第一公園「コスモパーク羽島」「羽島中央公園」の3つの対象地を、運動メインの公園の「平方第一公園」「羽島中央公園」と緑の多い「コスモパーク羽島」に分けて調査をした。

まずは、「平方第一公園」「コスモパーク羽島」を目視調査し、人の動きなどを目視で調査した。

表-2 目視調査概要（平方第一公園）

表-3 目視調査概要（羽島中央公園）

調査概要	
実施期間	2020/10/26 . 11/9 . 11/11 . 11/16 . 11/25 (平日)
実施時間	11:00~17:00
天気	晴れ
対象場所	平方第一公園
対象者	平方第一公園の利用者
調査方法	公園での目視調査
調査内容	
人数、性別、年齢層、なにが目的で利用しているのか	
何時から来て何時に出たか、滞在時間	
どうゆうルートで移動しているか、人の動き	
どこに人が集まるのか	

調査概要	
実施期間	2020/10/28 . 11/10 . 11/12 . 11/18 . 11/26 (平日)
実施時間	11:00~17:00
天気	晴れ
対象場所	羽島中央公園
対象者	羽島中央公園の利用者
調査方法	公園での目視調査
調査内容	
人数、性別、年齢層、なにが目的で利用しているのか	
何時から来て何時に出たか、滞在時間	
どうゆうルートで移動しているか、人の動き	
どこに人が集まるのか	

図-4 は平方第一公園、羽島中央公園、コスモパーク羽島の3つの各公園の利用状況を図に表したものである。11:00~17:00を2時間毎に分け、それぞれの公園の利用者が滞在している場所や利用者の動きを表している。紫色の円の大きさと滞在していた人数の多さを表しており、黄色の線の太さで人の動きの多さを表した図である。

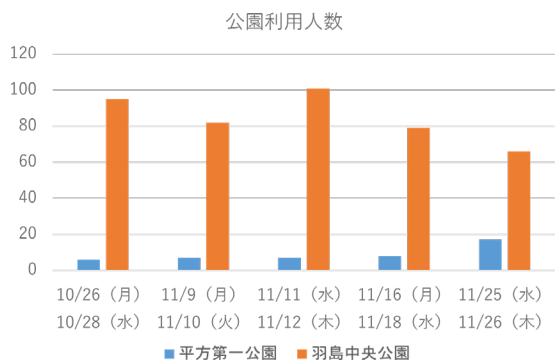


図-3 利用人数の比較

「平方第一公園」「羽島中央公園」これらの2つの公園では、その公園の特徴にあった公園の利用がされており、運動系の利用を多くされていた。しかし、利用者の人数が大幅に違い、平方第一公園より羽島中央公園は10倍近くの利用者であった。

コスモパーク羽島でも、11:00～15:00頃に母親と子供の親子が遊具を使用している人数が多かった。コスモパーク羽島では、時間帯関係なく散歩をする人数が非常に多かった。また、散歩をする人は緑の多い場所や道を歩く傾向が見られた。

目視調査の結果、平方第一公園では、15:00以降の夕方の時間帯に野球のグラウンドで小学生、中学生のキャッチボールなどの運動の遊びがよく見られた。羽島中央公園では、11:00～15:00の時間帯に母親と子供の親子が遊具で遊ぶ姿が特によく見られ、こちらの公園でも15:00以降には、小学生、中学生の団体が遊具やグラウンドで遊ぶ姿がよく見られた。また、11:00～17:00の間のどの時間帯でも幅広い年齢層の利用者が遊歩道でのウォーキングやジョギング、ランニングをしている姿が非常に多数見られた。

表-4 目視調査概要 (コスモパーク羽島)

調査概要	
実施期間	2020/11/30、12/2、12/7、12/8、12/10 (平日)
実施時間	11:00～17:00
天気	晴れ
対象場所	コスモパーク羽島
対象者	コスモパーク羽島の利用者
調査方法	公園での目視調査
調査内容	
人数、性別、年齢層、なにが目的で利用しているのか	
何時から来て何時に出たか、滞在時間	
どうゆうルートで移動しているか、人の動き	
どこに人が集まるのか	

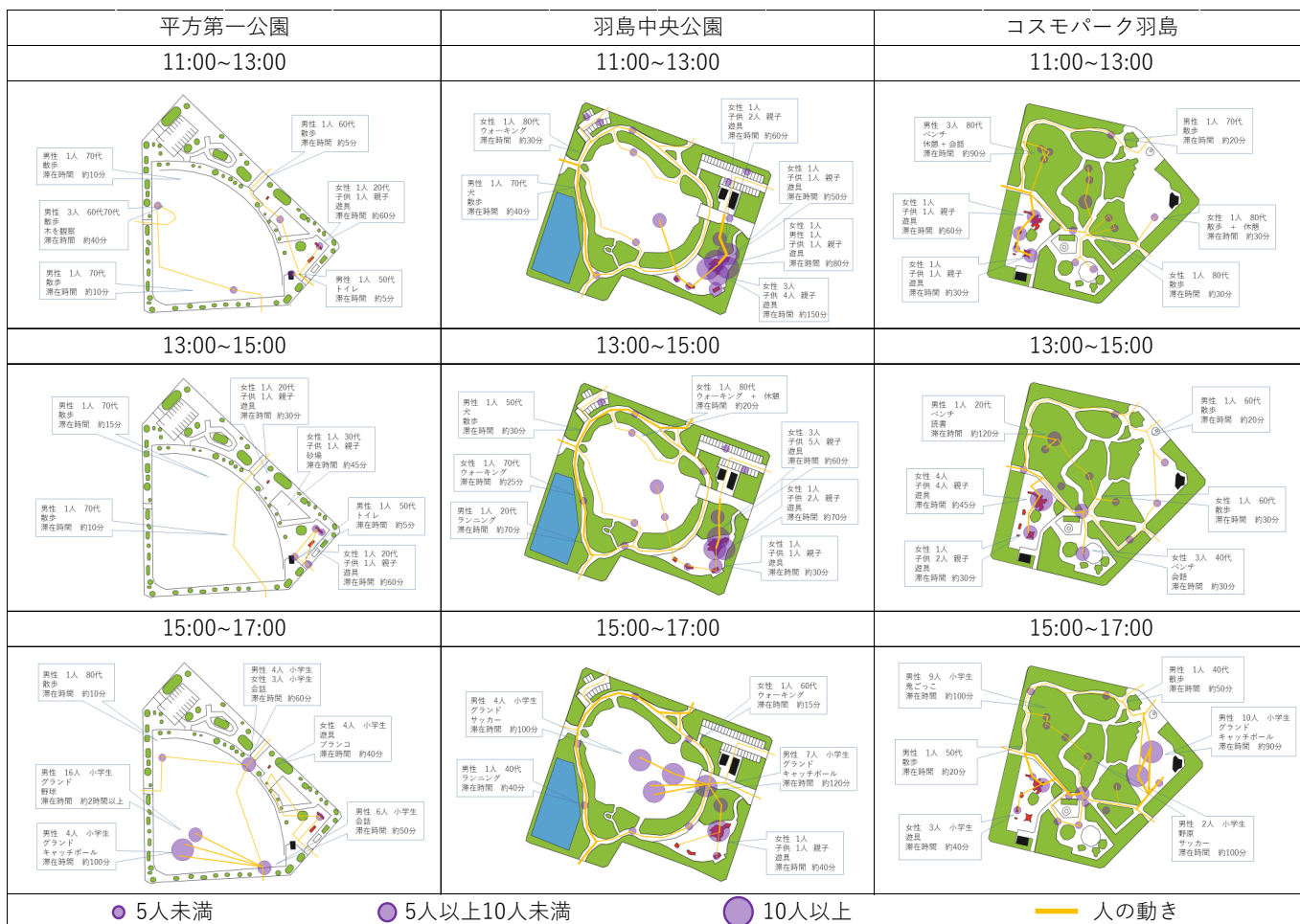


図-4 各公園の滞在中の場所と人の動き

図-5 は、平均した 1 日の運動した利用者の人数をグラフに表したものである。ウォーキング、散歩をした人を青色で表して、ジョギング、ランキングをした人をオレンジ色で表した。このグラフから分かるように、羽島中央公園が運動した利用者が 1 番多いことが分かった。続いて、コスモパーク羽島、平方第一公園という結果が出た。

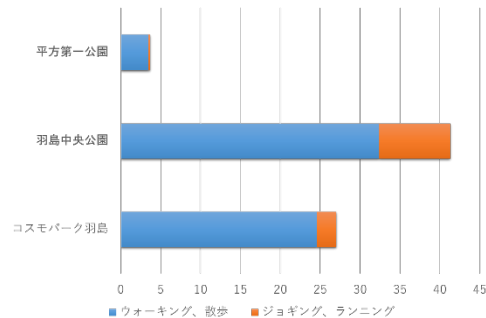


図-5 各公園の平均した1日の運動人数比較

3-2 公園利用者のコロナ化前後の意識変化

ヒアリング調査は、コロナウイルスが進行している中で実際に人と対面してインタビューを行うのは難しいと考えた。そこで、Google フォームを使い QR コードを読み取ってもらい、アンケートの質問に答えてもらうアンケート形式で調査を行った。

ヒアリング調査では、公園の利用者へ直接意見を聞くことで、表面的な情報だけでなく、より詳しい情報を聞くことができ、より明らかにすることを目的としている。アンケートでは、主にコロナウイルスが拡大する前とコロナウイルス拡大後での利用者の意識の変化について質問した。

ヒアリング調査の結果から、コロナウイルス拡大後の来園した目的は健康づくりや運動のためなどという意見が多く、コロナウイルス拡大前よりコロナウイルス拡大後の公園の利用率が上がったという意見が多かった。

4 まとめ

羽島市にある 3 つの近隣公園「平方第一公園」「羽島中央公園」「コスモパーク羽島」を調査して、現在の公園の利用実態とコロナ拡大前とコロナ拡大後の利用の意識変化について分かった。今回の with コロナで公園の価値が再認識され、今までとは違う公園の使われ方となった。研究結果、コロナ禍の状況下で最も必要とされる公園は運動しやすい公園である。羽島市にある 3 つの公園を比較して、「羽島中央公園」のような公園が必要になると結論づけた。羽島市にある公園だけでなく、全国の公園にも当てはまることが予想される。また、With コロナだけでなく、After コロナの状況下でも運動、健康など求められることが予想される。今後、公園はこのコロナウイルスの影響を受け、運動しやすい公園を増やしていくべきである。

謝辞

適切な指導をしてくださった岡本先生に感謝いたします。

参考文献

- 1) 羽島市公式 web サイト <https://www.city.hashima.lg.jp/> (参照 2020-09-20)
- 2) 国土交通省 https://www.ktr.mlit.go.jp/city_park/machi/city_park_machi00000005.html (参照 2020-10-12)

表-5 ヒアリング調査概要

調査概要	
実施期間	2020/12/26 (土)
実施時間	11:00~17:00
天気	晴れ
対象場所	平方第一公園,羽島中央公園,コスモパーク羽島
対象者	平方第一公園,羽島中央公園,コスモパーク羽島の利用者
調査方法	公園でのヒアリング調査 (アンケート)

表-6 質問内容

性別	
年齢	
どこから訪れたのか	
どういった手段で訪れたのか	
現在	来園した目的
コロナウイルス拡大前(2020年1月以前)	
現在	誰と訪れることが多いのか
コロナウイルス拡大前(2020年1月以前)	
現在	公園の満足度
コロナウイルス拡大前(2020年1月以前)	
現在	利用の頻度
コロナウイルス拡大前(2020年1月以前)	
現在	利用する時間帯
コロナウイルス拡大前(2020年1月以前)	
現在	よく利用する公園内の場所
コロナウイルス拡大前(2020年1月以前)	
現在	当該公園のどのようなところが気に入っているか
コロナウイルス拡大前(2020年1月以前)	
現在	当該公園のどのようなところが気に入らないのか、改善点など
コロナウイルス拡大前(2020年1月以前)	
with コロナ、after コロナの世の中で公園に1番求めること	

窯業系事業所の立地と利用動向に関する研究
～多治見市、瀬戸市を事例として～

EC 17013 奥村隆丈

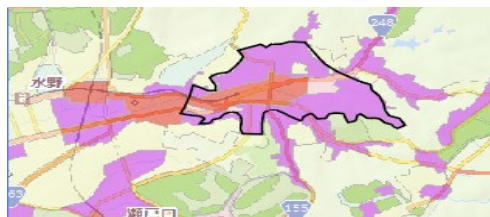
1.背景と目的

岐阜県多治見市は陶磁器産業が有名である。多治見市は日本の歴史を通して陶磁器の一大産地としての役割を果たしてきたが 80 年代の円高不況や 90 年代のバブル崩壊、リーマンショックによる影響や、人口減少により陶磁器の売れ行きが減少したことが事業所の減少に繋がっている。産業のみならず観光も同じで経済が不安定で人口が減少している中で陶磁器にまつわる観光地や街並みが保存されている場所の維持や活用法について本研究は考える。

2.研究の枠組み

2.1 研究対象の範囲と概要

研究対象の範囲は多治見市、瀬戸市でその中心市街化区域である。多治見市は多治見駅の南側、土岐川周辺である。瀬戸市は尾張瀬戸駅周辺から陶祖公園に相当する範囲である。多治見市と瀬戸市は大きく 3 つの共通点があり、生産される陶磁器の共通点が多いこと、街を挙げてこの街といえば陶磁器であると印象的な宣伝を行っていること、名古屋の経済圏であることが挙げられこれが多治見市、瀬戸市を選択した理由である。両市とも市内には狭義的にさまざまな種類の陶磁器製品を生産している場所があり、そのいずれも街の郊外にある。生産している商品は地域によって違う所が特徴である。



図一、2 凡例

凡例	
	商業地域
	準工業地域
	第一種低層住居専用地域
	第一種住居地域
	駅

図一 多治見市中心市街地（黒枠内） 図二 瀬戸市中心市街地（黒枠内）

2.2 調査方法

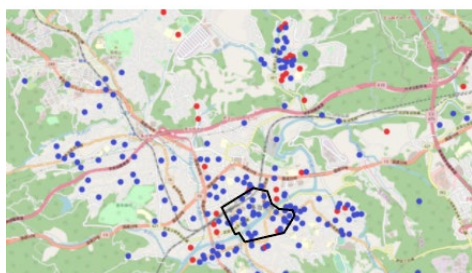
実態を明らかにするために地域経済情報システム（RESAS）で 2011 年から 2018 年までの立地を知る。窯業系組合の住所データから総数を把握し、情報をジオコーディングし現在の立地を調べる。立地と国土数値情報の土砂災害危険区域から災害危険箇所を調査する。利用動向を考える上で接道や建物面積に観点を置き、それぞれの街の評価を行う。

3.事業所の現状

3.1 過去の立地動向

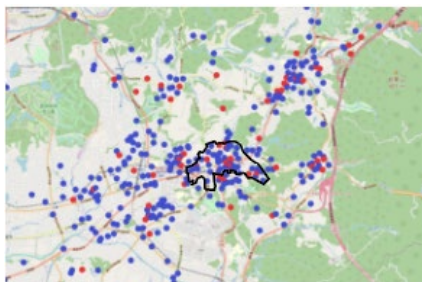
事業所全体の減少を把握するため地域経済分析システム（RESAS）を使用。赤は複合事業所、青は事業所。

多治見市

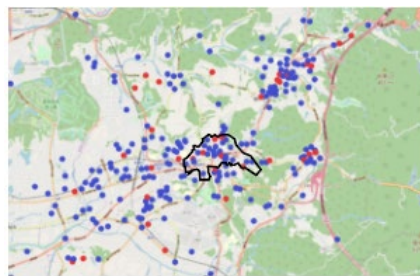


図一 2011 年多治見立地状況 引用（RESAS） 図二 2018 年多治見立地状況 引用（RESAS）

瀬戸市

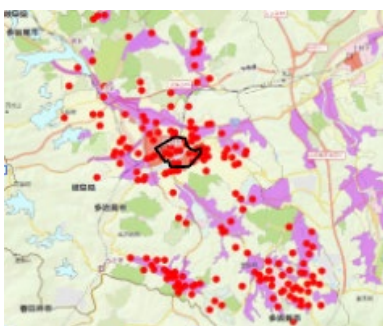


図一5 2011年瀬戸立地状況 引用 (RESAS)

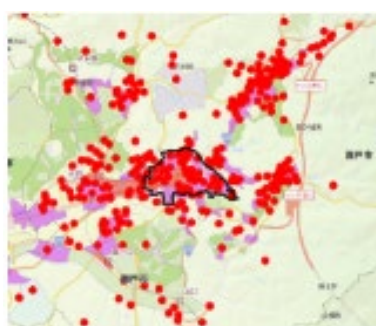


図一6 2018年瀬戸立地状況 引用 (RESAS)

3.2 現在の立地動向



図一7 多治見市全体の事業所



図一8 瀬戸市全体の事業所

図一7、8、9、10 凡例

凡例	
	商業地域
	準工業地域
	第一種低層住居専用地域
	第一種住居地域
	事業所立地箇所

調査結果は多治見市全体の陶磁器関連の事業所は 291 件、瀬戸市全体の陶磁器関連の事業所は 477 件となり、中心市街地内は多治見市は 13 件、瀬戸市は 51 件となった。

4. 現地調査

立地動向調査結果から各事業所の傾向を知るために多治見市、瀬戸市の中心市街地にある事業所を対象に調査を行う。外観の撮影と「営業の有無」、「地域事情周辺の様子」、「接道」、「地形・防災」をまとめた。

① 営業の有無

表一1 多治見中心市街地営業の有無

営業している	8件
営業していない	5件

表一2 瀬戸中心市街地営業の有無

営業している	48件
営業していない	3件

多治見市の方が営業していない事業所が多く、営業していない 5 件の内 2 件が自宅、3 件が空き家となった。瀬戸市は営業していない 3 件の内 2 件が他業種の事業所であり陶磁器関連の事業所としては消滅し、残りの 1 件は空き家となっている。自宅となっている事業所跡は周辺の住宅地と完全に溶け込んでいる。以下(表一3)に他業種の事業所となっている事例を示す。

表一3 瀬戸中心市街地事業所跡の活用例 (多治見市は事例なし)

	幅員	接道	造り	階数	周辺	営業	敷地周辺の急な高低差	建築面積	用途地域	
ナカドール (現 名古屋銀行)	10.0m	95m	鉄筋コンクリート	3階	住宅街	してない	なし	835.9㎡	準工業地域	
	5.8m	16.0m	鉄筋コンクリート	4階	住宅街	している	あり	650.1㎡	準工業地域	

※表の幅員、接道は事業所前の水路から対面の水路までの距離 (幅員)、道路に面している距離 (接道)。

②地域事情周辺の様子

駅や住宅街が近くに存在している事業所が大半であり、駅や既に観光地となっている場所の近くに存在している事業所のほうが観光地としての性格が強い。

③接道

表一4 多治見二項道路

二項道路該当しない	12件
二項道路該当	1件

表一5 瀬戸二項道路

二項道路該当しない	35件
二項道路該当	16件

多治見市と瀬戸市を比較して瀬戸市のほうが二項道路に該当する箇所が多い。多治見市は平坦な地形で幅員4m以上余裕をもっているのに対し、4m以上の基準に近い。瀬戸市は起伏が激しく狭い路地が多い。

表一6 多治見事例

	幅員	接道	造り	階数	周辺	営業	敷地周辺の急な高低差	建築面積	用途地域
山周青木周造商店	3.5m	7m	木造	2階	駅、住宅	している	なし	380.0㎡	商業地域
	幅員	接道	造り	階数	周辺	営業	敷地周辺の急な高低差	建築面積	用途地域
カネヨ	3.4m	10m	鉄筋コンクリート	3階	住宅	している	なし	319.5	商業地域



表一7 瀬戸事例（数例示す）

	幅員	接道	造り	階数	周辺	営業	周辺の急な高	建築面積	用途地域
丸岩製陶所	3.6m	17.5m	木造	2階	住宅街	している	ない	239.2㎡	準工業地域
	幅員	接道	造り	階数	周辺	営業	地周辺の高低	建築面積	用途地域
丸松製陶所	2.2m	11.9m	木造	2階	住宅街	している	あり	92.5㎡	商業地域
	幅員	接道	造り	階数	周辺	営業	地周辺の高低	建築面積	用途地域
丸窯製陶所	2.2m	30.1m	木造	2階	住宅街	している	ない	160.1㎡	準工業地域
	幅員	接道	造り	階数	周辺	営業	周辺の急な高	建築面積	用途地域
愛窯工芸社	3.5m	11.3m	木造	2階	駅、商業	している	なし	131.4㎡	準工業地域



表一8 接道・幅員平均

多治見中心市街地接道平均	多治見中心市街地幅員平均
8.5m	5.6m
瀬戸中心市街地接道平均	瀬戸中心市街地幅員平均
11.7m	5.6m

表一9 建物面積平均

瀬戸市中心市街地	多治見中心市街地
平均面積 329㎡	平均面積 146㎡

④地形・防災

表-10 危険区域から50m以内に存在する事業所（多治見市は事例なし）








事業所名	幅員	接道	造り	階数	周辺	営業	周辺の急な高	建築面積	用途地域	写真
愛窯工芸社	3.5m	11.3m	木造	2階	駅、商業	している	なし	131.4㎡	準工業地域	
マサキクラフト	3.4m	24.1m	鉄骨	2階	駅、商業	している	あり	327.0㎡	準工業地域	
洞山窯	4.3m	35m	木造	1階	住宅街	している	あり	252.4㎡	準工業地域	
寿窯（水野教雄陶房）	4.7m	24.5m	木造	2階	住宅街	している	なし	55.3㎡	準工業地域	
イワツキ	3.8m	40.0m	鉄骨	2階	住宅街	している	なし	230.8㎡	準工業地域	
瀬戸本窯窯	2.5m	21.1m	木造	2階	住宅街	している	あり	443.1㎡	準工業地域	
田代尚照	1.7m	10.5m	木造	1階	住宅街	している	あり	124.3㎡	準工業地域	



図-9 多治見市土砂災害危険区域

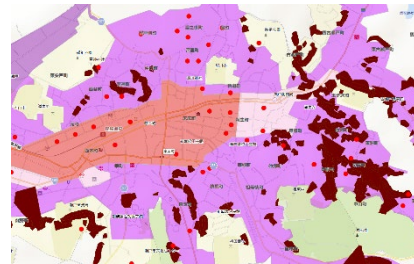


図-10 瀬戸市土砂災害危険区域

表-11 危険区域付近に存在する事業所

土砂災害危険区域から50m以内の事業所数			
瀬戸市	7件	多治見市	0件

表-12 土砂災害危険区域二項道路該当

瀬戸土砂災害総計	二項道路該当
7件	5件

5. まとめ

新しい土地利用している箇所は瀬戸市で存在したがいずれも陶磁器とは関係ない、さらにその土地を購入する際にまとめて周辺の土地を購入しており使われなくなった事業所が老朽化した際の新しい活用として陶磁器と関係ある施設がつくられるのかが関心事である。陶磁器とは関係ない施設が作られる事が繰り返されれば普通の街に戻ってしまう。多治見市ではそのような利用はないが自宅や空き家の存在が目立つことが分かった。瀬戸市と比べて二項道路に該当する可能性の箇所が少なく現建物の建て替えは行いやすいと考える。

6. 参考文献

- 1) 地域経済分析システム (RESAS) <https://resas.go.jp/#/23/23204> (参照 2020-6-10)
- 2) 国土数値情報ダウンロードサービス <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/> (参照 2020-12-10)

岡崎市のリノベーションまちづくりによる空間とアクティビティの変容に関する研究

EC 17033 田中拓斗

1. 研究の背景と目的

今日本では少子高齢化社会が加速している。高齢者が増え、人口が年々減少傾向にあることから、市町村が行うまちづくりにも大きな影響を及ぼしている。例えば、人口が減少し高齢者の割合が増加することにより、遊具が多い公園やグラウンドは使用率が低下することが考えられる。また高齢者が居住していた住宅や店舗は、本人である所有者が亡くなったり、老人ホームに移り住んだりすることによって使用されなくなり老朽化が進んでいく。このような使用されなくなった空き家、空きビル、空き店舗、利用率の低い公園などの今ある資源を改修し、それを活用して自治体の都市、地域経営課題を解決していく事をリノベーションまちづくりと言う。多くの都市でリノベーションまちづくりが行われている中で愛知県岡崎市もその1都市である。岡崎市では近年、中心市街地の衰退、空洞化の現象が現れ、是正を図るため、岡崎市では1999年及び2008年に中心市街地活性化基本計画を策定し、活性化に取り組んできたが依然衰退の流れを押しとどめるには至っていないのが現状である。また、市が作成した岡崎観光基本計画や中心市街地活性化ビジョンによると中心市街地を今より魅力あるまちにし、観光客を増やしたいと考えている。これらの現状があるため、リノベーションまちづくりによる中心市街地の対策を必要としていると考えられる。では岡崎市のリノベーションまちづくりでは具体的にどのような活動が行われているのか、それによって岡崎市に空間とアクティビティの変容があったか明らかにすることを目的とする。

2. 研究の枠組み

2.1 研究対象地の概要

岡崎市の中心市街地である康生町を研究対象地とする。岡崎市は愛知県の中央やや南あたりに位置

している。人口は現在38万7106人である。岡崎城は徳川家康誕生の地として認知されている。リノベーションまちづくりが多くの都市で行われている中で、岡崎市を対象地域として選んだ理由として、かつて岡崎城を中心に栄えた城下町が衰退し、空き家、空き店舗が増加した中で、リノベーションという手段を活用して近年多くの公共、商業施設が建っていることを知ったからである。岡崎市の中心市街地で2015年から行われているリノベーションまちづくりの特徴は「遊休・公共不動産を改修・活用し、それを核にまちの課題解決につなげるまちづくり」+「民間主導で補助金を使わないまちづくり」である。

2.2 研究方法

岡崎市の中心市街地で行われているリノベーションまちづくりについて調べたところ、リノベーションまちづくりがいつ、どこで、どんな活動を行っていたかが把握できた。次にこのリノベーションまちづくりでの活動を年表化、図化し活動の実態を調べた。その後、年表化、図化したデータを活動の種類別、場所別、年別などで分類しアクティビティの変容を明らかにした。次に空き家、空き店舗などをリノベーションし新しい施設、お店ができた事例を図にまとめ、空間の変容があったかを明らかにし、アクティビティと空間の相互関係性があるかも考えた。またリノベーションまちづくりを通してお店を開業した方から、リノベーションまちづくりの評価を聞くべくアンケート調査を行った。最後に現時点でリノベーションまちづくりによって岡崎市の中心市街地がアクティビティ、空間の両面でどれ程のメリットがあったかを明らかにする。

3. リノベーションまちづくりでの活動実態

3.1 リノベーションまちづくりの全体像

2015年から行われている岡崎市のリノベーショ

ンまちづくりの活動実態を調査するため、リノベーションまちづくり公式 Facebook からいつ、どこで、どんな活動をしたのか把握し、そのデータを年表化した。岡崎市のリノベーションまちづくりは今年で6年目となり、計43回の活動実績があ

種類	回数	内容	
A	単発イベント系	5回	市場、演奏会などの継続されないイベント
B	継続イベント系	19回	何度か回数を重ね継続して行われるイベントや計画
C	リノベーションスクール系	11回	リノベーションスクールやそれに関連している活動
D	リノベーション開業系	9回	リノベーションスクールを通しての開業
E	セミナー、話し合い系	16回	セミナー、講師を招いての話し合い、勉強会など

表1 全ての活動のカテゴリー



図1 2015年の活動



図2 2016年の活動



図3 2017年の活動



図4 2018年の活動

った。活動の全容を知るため、すべての活動をカテゴリー別にまとめた(表1参照)。その後、さらに細かく活動の特徴を知るため、その中で2016年10月ごろから一年間の活動をピックアップしてみた。それが表2である。

表2 活動のピックアップ

日付	名前	場所	内容	市民の参加	
イベント	2017.9/5	リノベーションまちづくりセミナー2017	同崎リブラ	北九州小倉魚町の再生に尽力された嶋田秀範さんが取り組みとその苦労について語る	〇定員100名(当日先着)
イベント	2017.4/14-16	リノベーションまちづくりサミット!!!2017	3331アーツ千代田	ユニットマスター達のリノベーションスクールや、豪華講師陣からのレクチャー	〇(本会議+パーティーにチケット購入で参加)
イベント	2017.3/21	私たちのQRUWA戦略	同崎リブラ	これまでの乙川プロジェクトでは何を学んできたか、そもそも乙川プロジェクトとはなどのお話会	〇定員200人
イベント	2017.2/19	まちのトレジャーハンティング@同崎	同崎市シビコ	まちの潜在能力を引き出し、まちの近未来像を都市戦略として提案する	〇プレゼンテーションには82人が応募し40名が選出され参加。見学者の定員は100名程度
イベント	2017.1/27	エリア再生・連続シンポジウム	同崎リブラ会議室301	栄達の事例を通して、岡崎ならではの事業や雇用を生み出す観光、エリアの価値を高めるヒントを探し出す	〇定員100名程度
イベント	2016.11/12.13	籠田公園演奏会、ライブ	籠田公園	ライブ、演奏会を行う。屋台やバーベキューもでき、遠足通り周辺が歩行者天国になっている	〇入場無料、定員なし
事業	2016.10.11頃	家守テーブル	グラスパークビル	リノベーションまちづくりから生まれる事業を支援するための場	〇参加者はメッセージで応募
事業	2016.10.11頃	らーめんモバイル屋台「らーめんかじや」	同崎市内	どこかで1day営業	×
事業	2016.10.11頃	ゲストハウス「風と土」	同崎花園町?	30年空き家だった家をシェアハウス併設型のゲストハウスに改装	×
事業	2016.10.11頃	ローカルメディア「butman」	詳しくは不明	自分がやりたいこと、やってきた事を多くの人に共有したいが、あまり表に出たくない人のためのメディア	×
イベント	2016.10/26	第二回リノベーションスクール	同崎シビコ6階	事業をしたい3グループのプレゼンテーション	〇募集人数24人クリエーターの方々、クリエーターを目指している方々募集



図5 2019年の活動

表1、2から見ると、活動の中身は、空き家、空き店舗などで、まちのために事業を行いたい人がやりたいことをプレゼンテーションするリノベーションスクールや、リノベーションまちづくりに詳しい講師をお呼びし、参加者を集いお話を聞くリノベーションまちづくりセミナー、リノベーションまちづくりサミットなどが中心である。「ラーメンモバイル屋台かじや」、「ゲストハウス風と土」、「ローカルメディア butman」などはリノベーションスクールでプレゼンした人達が実際に事業を行ったものである。他にも籠田公園での演奏会を行うなど一般の人に向けたイベントもやっている。また図1から図5では活動を年別化した。初年度の2015年はリノベーションについて学ぶ目的の活動がほとんどでこの年にリノベーションを行った事例はなかった。しかし2016年になるとリノベーションスクールで生まれたお店が沢山開業し、ま

た活動自体も一番多い年であった。それ以降の年では活動の数自体は減ったものの単発のイベントやリノベーションスクール、お店の開業が行われている。活動が減った理由はイベント、お店の開業などを行うまでに多くの準備期間がかかったり2016年に、ある程度リノベーションスクールから空き家、空き地の利活用をするという流れが出来たためだと考えられる。

3.2 アクティビティの変容

表2や、先ほどの「3.1 リノベーションまちづくりの活動実態」で述べたように、ほとんどの活動に岡崎市民が参加している。それもお客さんや聞き手、プレゼンターといった様々な立場で活動に参加している。図1から図5に載っている活動ほとんどに岡崎市民が参加していると考えたりリノベーションまちづくりが多くの人動きを変え、まちの賑わいを生んでいると考えられる。言い換えれば、リノベーションまちづくりによって岡崎市の中心市街地にアクティビティの面で良い効果を与えていると言える。

3.3 空間の変容

リノベーションまちづくりの活動ではまちの空間に関わるような活動も行っている。空間面の変化を示したものが図6である。図6に書かれているグラスパークビル、wagamama house はリノベーションまちづくりで、空き家であった物件を改修工事して新たに利活用したお店である（図9から12参照）。また籠田公園もリノベーションまちづくりによってリニューアルオープンしている（図7,8参照）。また図1から5からこの3地点で多くの活動が行われていることがわかる。他にも図6から、喫茶店、屋台、ゲストハウスなどが存在することがわかる。これらはリノベーションスクールでプレゼンした方達が実際に事業を行ったものである。このようにリノベーションまちづくりによって空き家、空き店舗などを利用し岡崎市の中心市街地に新しい空間が生まれたことが分かった。これはまちの空間という観点で見た時、良い効果を生んでいると言えるだろう。

3.4 アクティビティと空間の変化の相互関係性

リノベーションまちづくりによってアクティビティと空間の面で良い効果を生んでいることが分かった。この2つの面には相関関係があると考えられる。グラスパークビルはレストラン、wagamama house はお惣菜屋さんとして経営している。勿論それだけではなく、この2つのスペースはリノベーションまちづくりのイベント会場として使われている。これは新しい空間がまちにできたことを表している。そして、レストラン、お惣菜屋さん、イベント会場という新しい空間が出来たことにより人の新しいアクティビティが生まれる。また、人のアクティビティが増えれば、また違う新しい空間に興味を持ち、人が集まる。あくまで考察の範囲内ではあるが、こうした連鎖効果が生まれるのではないかと考えた。そしてこの効果が岡崎市の中心市街地に良い影響を与えていると考えることが出来る。



図6 リノベーションまちづくりの空間面の変化



図7,8 籠田公園（左がリニューアル途中、右が後）



図9,10 グラスパークビル（左が改修途中、右が後）

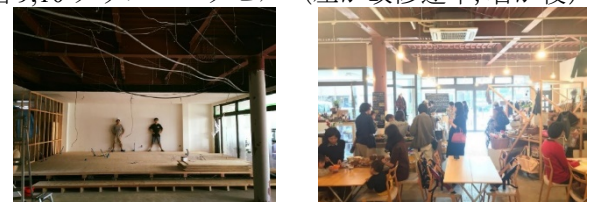


図11,12 wagamama house（左が改修途中、右が後）

4.店舗出店者へのヒアリング調査

4.1 ヒアリング調査の概要

今回はリノベーションまちづくりを通して開業した **wagamama house** の創業者を対象にヒアリング調査を行った。**wagamama house** はお惣菜や、カフェとして経営しており、リノベーションまちづくりのイベント会場として使われることがある。調査目的はリノベーションまちづくりを通して店舗を開業した理由や創業者からみたリノベーションまちづくりの評価を聞くためである。ヒアリング内容は表2に記した。

表2 ヒアリング内容

調査日時	1月12日
調査対象	wagamama house創業者
ヒアリング目的	リノベーションまちづくりを通して店舗を開業した理由や創業者からみたリノベーションまちづくりの評価を聞くため
ヒアリング内容	1.リノベーションまちづくりを通して開業する利点はあったか 2.開業してからまちづくりに貢献していると感じるか 3.平均的な1日の来場者数はどれくらいか

4.2 ヒアリング結果

ヒアリング結果は表3に記した。ヒアリングをして明らかになったことは、**wagamama house** からするとリノベーションまちづくりの多くのサポートのおかげで自分のやりたいことを形にすることができた。また、リノベーションまちづくりからすると使われなくなった空き店舗をお店に変え、色々な人とコミュニティを築くことにより、**wagamama house** がまちの一部として機能することになる。このように **wagamama house** が営業することで、リノベーションまちづくりと **wagamama house** 両方に利益があり、どちら側にもデメリットがないということがわかる。お互いに有益な関係があるからこそ、現在においてもリノベーションまちづくりは活動出来ていて、活動参加者も多いのではないかと考えられる。

表3 ヒアリング結果

ヒアリング結果	
ヒアリング内容	1.リノベーションまちづくりを通して開業する利点はあったか 2.開業してからまちづくりに貢献していると感じるか 3.平均的な1日の来場者数はどれくらいか
ヒアリング結果	1.リノベーションスクールのおかげさまというところは沢山あります。自分の思いだけでは形にしにくい部分のサポートがあったり、仲間と巡り会えたり大家さんとの信頼関係を築く上でも沢山のサポートを頂きました。 2.自分達はまちづくりをしている、という意識はあまりないのですが、営業を続けることで、ご近所の方やお客さんとのコミュニティを築くことが出来ているのが、結果まちづくりに貢献しているのかな、と感じています。 3.大体20人くらいです。

5.結論

本研究を通してリノベーションまちづくりが行っている活動の中身、その活動によってまちに与える影響はどのようなものなのか、調査し明らかにしてきた。結果岡崎市の中心市街地にリノベーションまちづくりによって変化をもたらした点は2つあると考えた。1つ目は人のアクティビティの増加、2つ目は空間の変化である。この2つはリノベーションまちづくりの軸となる要素であり「3.4 アクティビティと空間の変化の相互関係性」で述べたように連鎖効果が期待でき、それが中心市街地の賑わいに繋がると考えられる。リノベーションまちづくりはまだ活動を開始してから5年の歳月しか経っていないが、今後もリノベーションスクールによって新たな空き家、空き地などの活用が増えるだろう。現在コロナウイルスによって活動が本格的には行えていないが、今後もリノベーションまちづくりによる中心市街地のアクティビティ、空間の変容に注目していきたい。

参考文献

- 1) 岡崎市リノベーションまちづくり公式 Facebook (2015年10月)
<https://www.facebook.com/renovationcityokazaki>
- 2) 岡崎市ホームページ商工労政課リノベーションまちづくり (2013年)
<https://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1565/1627/renovation.html>
- 3) 株式会社リノベリング リノベーションまちづくりとは (2020年3月)
<https://www.renovaring.com/machidukuri/index.html>
- 4) 岡崎市企画課おためしサテライトオフィス総務省 (2017年10月)
<https://www.soumu.go.jp/satellite-office/aichi/post1.html>
- 5) 岡崎市中心市街地活性化ビジョン (2011年3月)
https://www.city.okazaki.lg.jp/1300/1303/1325/p008631_d/fil/chukatsuvision.pdf

大都市圏郊外丘陵都市の道路網の変遷に関する研究
～高度成長期以降の多治見市に着目して～

EC17035 谷口 蓮

1. 研究の背景と目的

高度経済成長時代以降、都市へ集中する労働人口の受け皿として都市近郊に郊外住宅地が開発されていった。我が国の経済発展を担ったサラリーマン世帯が、家族と過ごし、英気を養うベッドタウンとして移り住み、発展してきた。しかし、住宅地を優先して開発されてきたために、計画的に街路が形成されず、スプロール化している地域や、人が住みづらい丘陵地に住宅団地を開発してきた都市も存在している。その結果、交通渋滞を招くなど都市機能が低下している現状があり、問題解決のために有効な手段を打つ必要がある。多治見市は、丘陵地ながら名古屋のベッドタウンとして住宅団地が数多く開発され、道路網もそれに伴い変化してきた。そこで本研究では、高度経済成長期以降の多治見市の道路が作られた場所、時期を調査し、どんな整備が行われてきたかを整理することで、これからの丘陵地域のまちづくりの在り方の一助となることを目的とする。

2. 研究の枠組み

2.1 対象地域

本研究では、岐阜県多治見市の道路網、住宅団地を研究対象とする。多治見市は丘陵地に大々的に住宅団地を開発してきた地域であり、同規模の人口を持つ都市が東海地域に他にないため。

2.2 研究方法

研究方法としては、多治見市の道路網、住宅団地に関する資料を多治見市のホームページ、市役所、多治見市図書館、岐阜県図書館で入手し、基本情報の把握と整理を行う。また、道路網の変遷と住宅団地の変化に伴い、人口推移や土地利用に変化が起きると考えられるので調査する。入手した地形図をスキャンし、PDF ファイルに変換する。PDF ファイルをイラストレーター上に落とし込む。イラストレーターで地形図上の道路、住宅団地を可視化し、道路変遷の変化が分かりやすくする。新たに建設された道路をイラストレーター上から見つけ、どのような場所、時期にできたか傾向を分析する。

3. 多治見市の基礎データ

3.1 住宅団地のデータ

郊外地域の人口 500 人以上の住宅団地について事業完了時期と高齢化率を調べる。高齢化率を比較すると「旭ヶ丘団地」、「梅平団地」で 35%以上と非常に高くなっている。全体を見ると、事業完了後の経過年数が多い団地ほど高齢化率が高い傾向にある。(表

表 1 事業完了時期と高齢化率 (25)

団地名	事業完了時期	高齢化率
白山みどり団地・市宮国家団地	S43	25%以上35%未満
旭ヶ丘団地	S39.44	35%以上
多治見苑団地レインボーゼルス	S46.61	25%以上35%未満
前山団地・前山台団地・元町台	S47.H3	25%以上35%未満
愛校パーク	S48	25%以上35%未満
梅平団地	S48	35%以上
旭ヶ丘団地・明和団地・東山団地	S48	25%以上35%未満
松風台・ガーデングレス松坂台	S49.H10	15%以上25%未満
市之倉ニュータウンつじヶ丘	S48.S4	25%以上35%未満
小滝苑	S55	25%以上35%未満
市之倉ハイランド	S57	15%以上25%未満
根本ステーションパーク・北丘団地	S59	25%以上35%未満
ホワイトタウン	S59	15%以上25%未満
希望ヶ丘団地・ひばりヶ丘団地	S61.G2	15%以上25%未満
ユアサティエ	S62	15%以上25%未満
小名田グリーンビレッジ	S63	15%未満
名鉄多治見線台	H3	15%未満
UR滝呂団地・滝呂台団地・滝呂台グリーンビレッジ	S48.S1.H7	15%以上25%未満
セラタウン笠原	H8	15%未満
たじみ望恵台	H8	15%未満
ヒルトップ若葉台	H10	15%未満
グリーンビュー東山公園通り	H12	15%未満

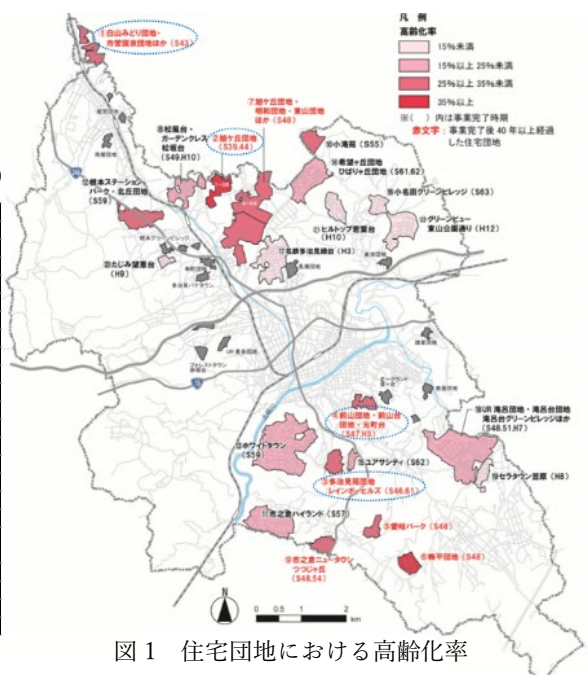


図 1 住宅団地における高齢化率
(出典：多治見市立地適正化計画)

1、図 1)

3.2 土地利用

住宅団地や道路網がどのような場所にできていったか調査するために多治見市の土地利用の変化を調べる。1976 (昭和 51) 年と 2014 (平成 26) 年の土地利用を比較すると、田やその他の農用地、森林、その他の用地が、「建物用地」に変わってきたことが分かる。郊外地域で住宅団地開発が盛んに行われたことが分かる。(図 2)

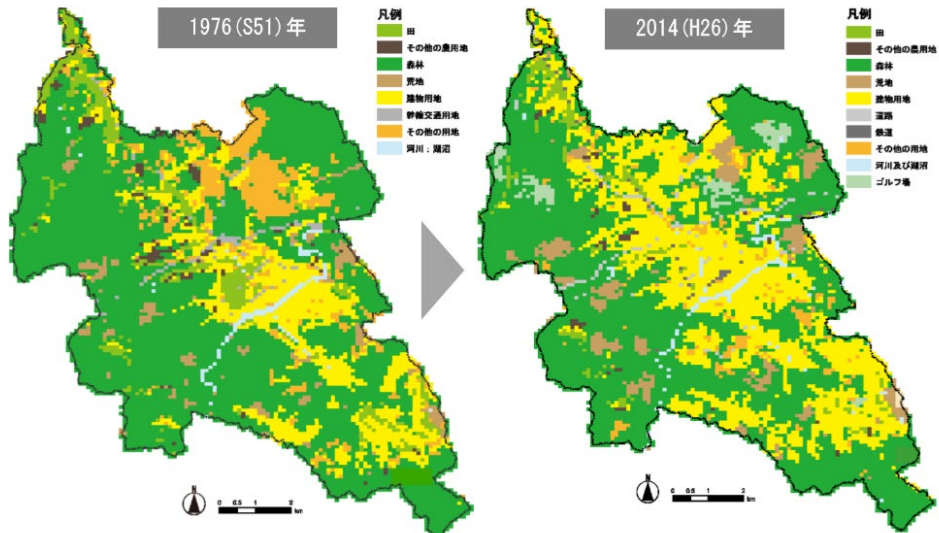


図 2 土地利用の変化 (100mメッシュ) (出典：多治見市立地適正化計画)

3.3 多治見市の人口

人口増加によって道路変遷に変化があると考えられるため、多治見市の人口、世帯数の推移を調べる。人口は 2000 年頃まで増加しており、それ以降現象している。世帯数は現在まで増加し続けている。(表 2、図 3)

表 2 人口・世帯数

年	人口	世帯数
1975	82174	19235
1980	87812	20875
1985	97867	24225
1990	106213	27808
1995	113079	31670
2000	115740	34558
2005	114876	36855
2010	112635	43453
2015	110441	45104

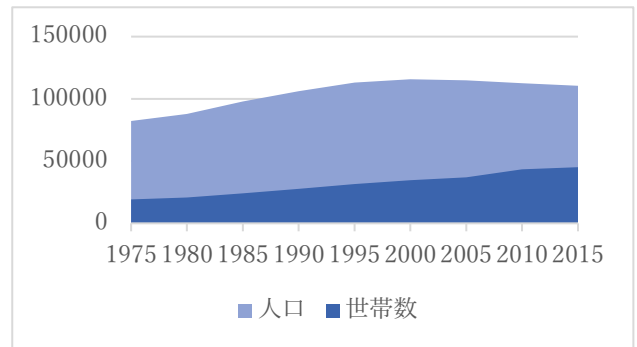


図 3 人口・世帯数の推移

4. 道路変遷と住宅団地の分析

多治見市の道路変遷を調べるために岐阜県図書館で入手した 2 万 5 千分の 1 縮尺の地形図を用いる。住宅団地ができ始めた昭和 50 年頃から現在まで、5 年ごとのデータを比較し、道路変遷を調べる。イラストレーター上に地形図を落とし込み、国道や市町村道、住宅団地を線や枠で囲い可視化する。図 4 のように赤線は国道、青線は市町村道、黄色枠は住宅団地を表している。図 5~12 は図 4 を四分分割した時の北西、北東、南西、南東それぞれに位置する地域である。図 5.7.9.11 は昭和 50 年頃の地形図である。図 6.8.10.12 では、昭和 50 年頃の地形図上に平成 30 年頃の住宅団地と道路網

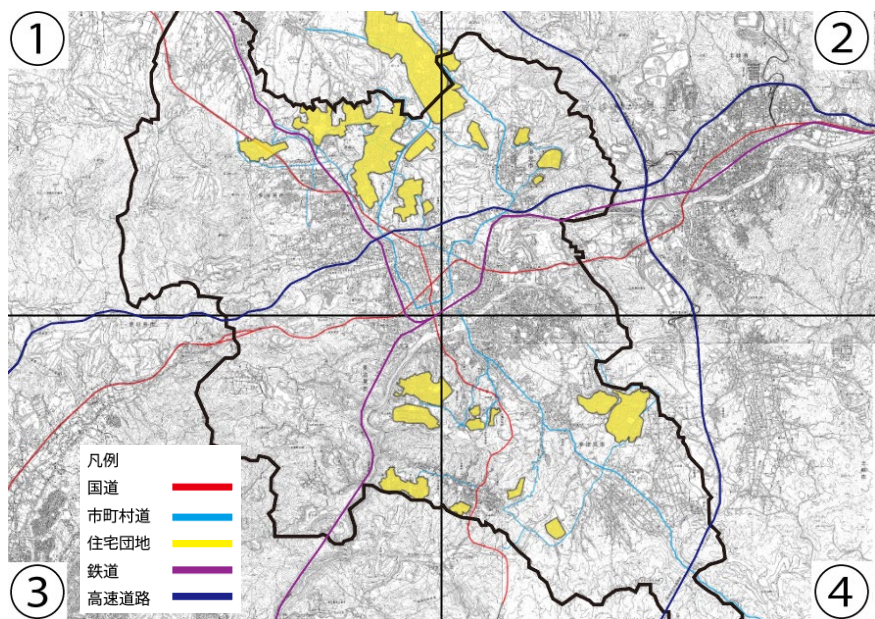


図 4 H30 年頃の多治見市(全域)

を表している。図 6.8.10.12 を見ると昭和 50 年頃には団地がなかったが、平成 30 年頃には針葉樹林だったところに住宅団地が開発されている。全体的に道路網を比較すると、都市中心部では大きな変化は見られなかった。また、国道などの幹線道路は延伸されていたが数は増えていなかった。このことから高度成長期までに都市構造の基盤となる幹線道路や市街地は形成されたと考えられる。高度成長期以降は、農用地や丘陵地を切り拓いて住宅団地が開発されたことが分かる。

5. 新設された道路の分析

図 13 は多治見市に新設された道路を約 10 年ごとに線や枠で示したものである。赤線は昭和 50 年頃から昭和 60 年頃、青線は昭和 60 年頃から平成 10 年頃、緑線は平成 10 年頃から平成 30 年頃に新設された道路を示している。図 14.15.16 は、図 13 上の赤枠、緑枠、青枠の中を拡大したものである。国道や県道などの幹線道路は増えていないが、住宅団地が開発されたのと同時期に主要な道路から住宅団地へ向けた区画道路が建設されたことがわかる。平成 10 年頃以降は幹線道路を繋ぐ道路や隣接している土岐市へ向かう道路が建設されたことがわかる。また、大きな住宅団地が開発された後である昭和 60 年頃から平成 10 年頃、平成 10 年頃から平成 30 年頃に小規模の住宅地が多く建設されている。それに伴い住宅地へ向かう小さな道路が多く建設されていったとわかる。

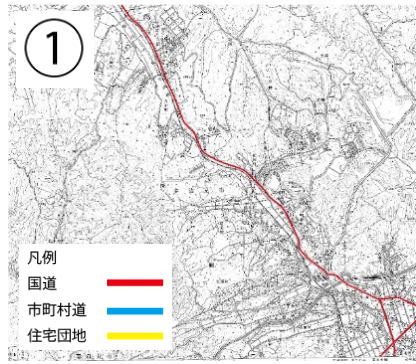


図 5 S50 年の多治見市

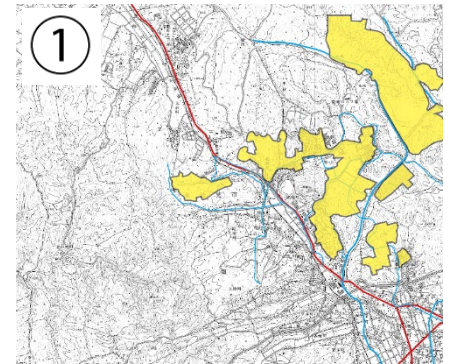


図 6 S50 年の地形図上に H29 年の団地と市町村道

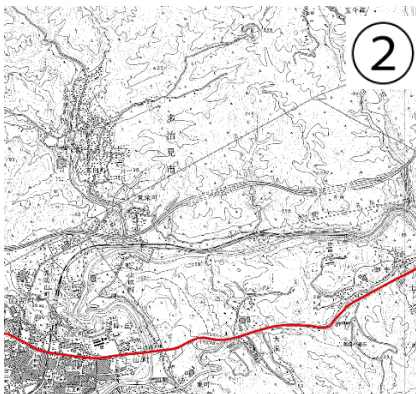


図 7 S50 年の多治見市

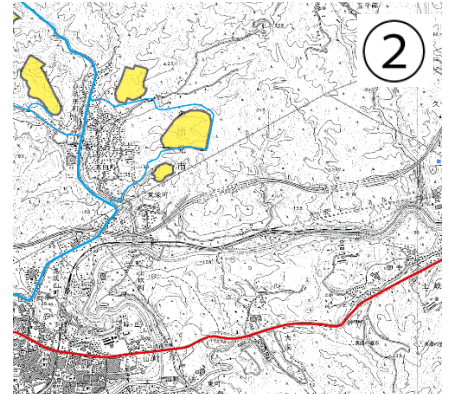


図 8 S50 年の地形図上に H30 年の団地と市町村道



図 9 S51 年の多治見市

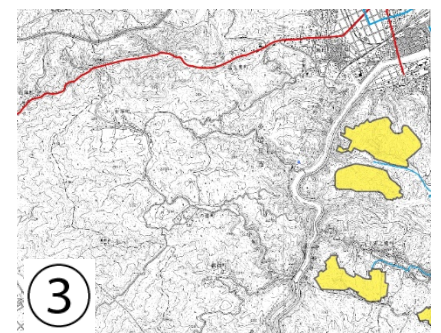


図 10 S51 年の地形図上に H28 年の団地と市町村道

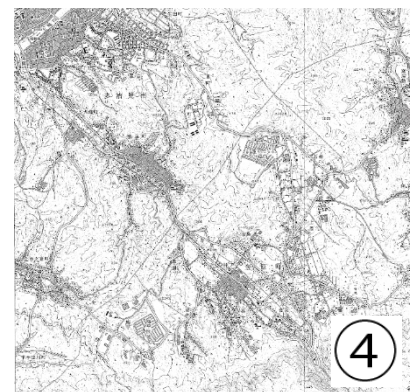


図 11 S50 年の多治見市

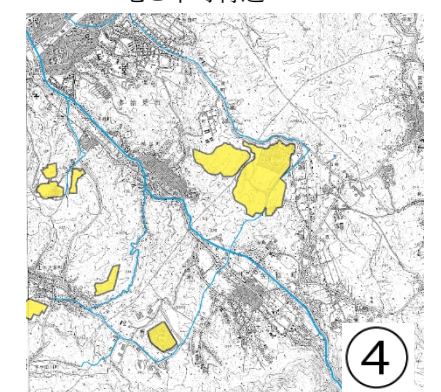


図 12 S50 年の地形図上に H27 年の団地と市町村道

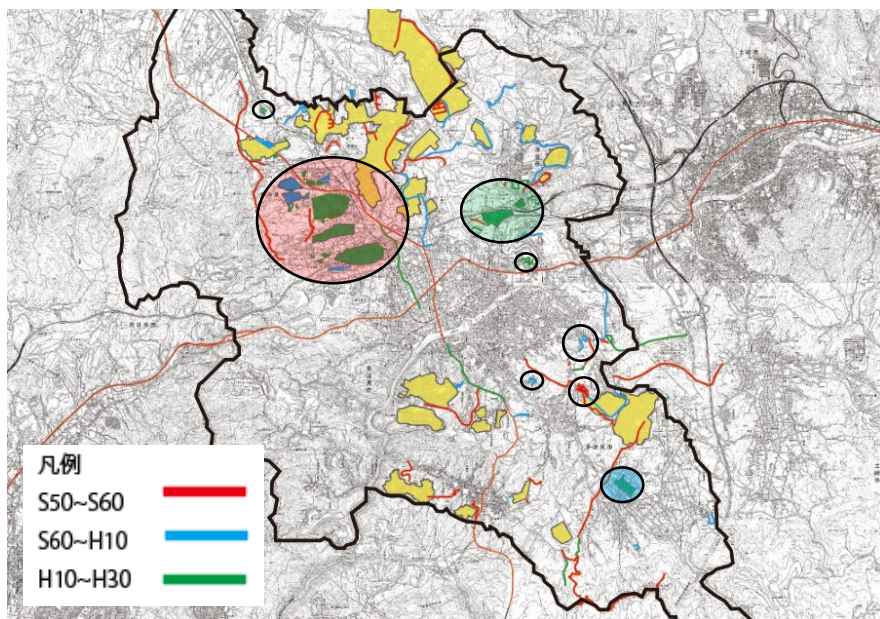


図13 新設された道路

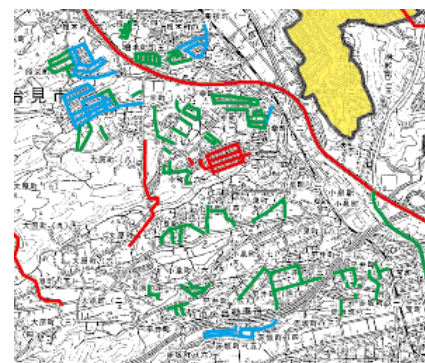


図14 赤枠の拡大

6. 考察とまとめ

本研究では多治見市の住宅団地と道路網の変化のデータを得た。多治見市は高度成長期以降多くの住宅団地が開発され、国道などの幹線道路へ向かう区画道路や住宅団地を繋ぐ道路が建設されていった。それに伴



図15 緑枠の拡大



図16 青枠の拡大

い、多治見市の人口と世帯数は増加していった。昭和60年以降も住宅団地が開発されていったが、同時に小規模の住宅地が山間部や田、農用地だった地域に開発されていった。それに伴い主要な道路へ向かう細かい道路が多く建設されている。人口増加による住宅地需要と利用していない土地が宅地として活用されるようになったことが重なった結果だと考えられる。平成10年以降は小規模な住宅地の他に、幹線道路と幹線道路を結ぶ道路や、隣接している土岐市へ向かう新しい道路が建設されてきた。人口増加による自動車利用者数の増加によって交通量が増加したことによる渋滞緩和が目的だと考えられる。

これらのことから、多治見市は虫食いの小規模な住宅地開発に伴って区画道路を増設してきたと言える。一方で、区画道路が繋ぐ幹線道路の数は多治見市が山間部に位置しているという地形的な問題で増えていないと考えられ、現在も渋滞が発生している。また、現在も山間部を切り拓いて住宅地を作っている現状もある。そこで丘陵地域の開発はやめ、中心市街地の再開発に今後取り組むべきだと考える。研究で得たデータから、道路や住宅地を増やす一方で、昔からある道路網や住宅地には変化が少ないことが分かった。人口減少が問題である現在、必要になるのは郊外地域の開発ではなく、既存の市街地に新しい住人を張り付ける取り組みだと考える。

7. 参考文献

- ・多治見市ホームページ 多治見市立地適正化計画 第1章 都市の現状と将来の見通し 2019年3月29日公表
<https://www.city.tajimi.lg.jp/kurashi/toshikekaku/kekaku/documents/ritteki1.pdf>
- ・国土地理院発行 2.5万分の1地形図

交流の場としての市民農園の環境条件に関する研究 ～岐阜県美濃地方を対象として～

EC17054 三輪 海音

1 研究の背景と目的

1.1 研究の背景と目的

日本では人口減少が進んでいる。このことにより空き地が増加している。空き地の面積は2013年時点で981平方キロメートルとなっており10年間で1.4倍に増加している。そして、研究対象地である岐阜県美濃地方にも空き地が増加していることが分かる。空き家が放置されることにより不法投棄による放火の危険性、害虫発生危険性、景観問題など様々な問題がある。このようなことから空き地をその地域にあった利活用ができないかと考えた。利活用することで地域の景観緩和に繋げることが可能である。利活用の一つとして利用目的がなくて放置されている状態になっている土地を対象にどのような空き地に市民農園を設置すればよいかを考えていく。空き地に市民農園を設置するにあたって、ただ空き地に市民農園を設置するのではなくその地域の交流の場・コミュニティの場になるような市民農園になることが望ましい。そこから市民農園が交流の場・コミュニティの場としてポテンシャルがあるかを評価していくことが目的である。

2. 研究の枠組み

2.1 市民農園とは

市民農園は、非農家の市民が、小規模な農地で、非営利的に野菜や果物、花卉などを栽培する活動または、そのために農家などから提供される農地、あるいは、それに地方自治体、農業協同組合、個人などが付帯施設などを整備して提供する農園。レジャー農園、ふれあい農園などの呼称が用いられることもある。

2.2 調査対象

本研究の調査対象は岐阜県美濃地方を研究対象とした。岐阜県美濃地方の市民農園は単純に野菜や花を育てていく農園となっていることが分かり、市民農園が交流の場・コミュニティの場になれば街が活性化すると考え岐阜県美濃地方を対象にした。

2.3 研究方法

日本の空地についてインターネットや論文から調べることで今の空地の発生状況の情報を入手した。国土交通省土地・建設産業局企画課には日本の空き地の発生状況や空地の現状や空地がもたらす影響についての情報が記載されていた。岐阜県内の市民農園の場所を把握するために農林水産省のホームページに全国市民農園リストから岐阜県をピックアップしてGIS(地理情報システム/Geographical Information System)を利用して市民農園の場所を地図上にGISのジオコーディングを使用して表示した。場所を特定した地図をもとに市民農園の周辺施設との関係性、ポテンシャルを調査していく。さらに市街化区域、市街化調整区域、農振地域に分けそれぞれの市民農園の面積の平均を計算する。また衛星写真から周辺施設を色分けしていき、カテゴリ分けを行う。これらの情報からどのような市民農園の環境条件が整えば街の交流の場になっていくのか考察していく。

3. 空地の状況

世帯所有の空き地2003年の681km²から2013年の981km²に増加(+300平方キロメートル)である。評価額にすると約3兆円分の土地が空き地の状態で世帯が所有する空き地のうち、約7割は相続・贈与で取得が多くは、利活用の見込みがなく相続しているのが現状である。空地がもたらす影響として、雑草繁茂など管理水準が低下した空き地が増大しゴミ等の不法投棄や害虫の発生など周辺に悪影響。地域内に空き地が多く存在することにより域イメージや地域の活力が低下。管理が長期間放置された空き地は所有者の所在の把握が難しい土地等の放棄宅地になり、国土の荒廃につながる。

4. 市民農園について

4.1 市民農園リスト

農林水産省のホームページから岐阜県の市民農園リストをピックアップした。全部で76件あることが

分かった。また、市民農園の住所と面積が分かるように市民農園名と一緒にまとめた。(表1を参照) 岐阜県内にある76件の市民農園の場所を地図上にピン立て示した。(図1を参照) この農林水産省全国市民農園リストは平成31年3月末のデータである。

表1：農林水産省全国市民農園リスト

市民農園名	面積	市民農園名	面積
岐阜市健康ふれあい農園	44,788	JAガーデン (西町5)	3061
岐阜市老人健康農園	13,473	JAガーデン (西町6)	1332
レンタル菜園ゆう遊あいかわワーク	4,013	JAガーデン (前平2)	875
My Sunny Garden市橋(下奈良1)	446	JAガーデン (前平町1)	650
東板谷市民農園	614	JAガーデン (牧野1)	512
My Sunny Garden西部(境川1)	300	JAガーデン (御門)	608
My Sunny Garden鷺山 (リンリン北土居)	608	JAガーデン (南野)	858
My Sunny Garden合渡 (一日市場)	359	JAガーデン (森山)	734
My Sunny Garden北長森 (長森本町)	552	JAガーデン (西町1)	154
My Sunny Garden上佐波西	499	JAガーデン (宮浦)	1092
My Sunny Garden芥見影山	1,147	朝日西市民農園	2271
My Sunny Garden三里	267	朝日東市民農園	2011
My Sunny Garden菅場東	377	鶴沼南町市民農園	1119
My Sunny Garden本社西	451	希望市民農園	995
My Sunny Garden則武西	323	前洞新町市民農園	666
My Sunny Garden境川	333	小林工業古瀬市民農園	1816
塩屋市民ふれあいファミリー農園	5,241	小林工業二野市民農園	2131
下切市民ふれあいファミリー農園	2,510	東帷子市民農園	1758
関市黒屋リフレッシュ農園	3,859	下恵土市民農園	1606
関市田原リフレッシュ農園	12,881	十九条農園	962
関市洞戸自由農園	4,976	祖父江農園	787
関市武儀楽らく農業学園	2,500	本田農園	1017
ふれあい農園	33,432	いきさい菜園	975
和紙の里わくわくファームふれあい農園	5,466	杉山農園	979
アグリパーク恵那市民農園	2,240	郡上八幡ふるさと農園	2929
JAガーデン (稲辺1)	1,202	白鳥ふれあい農園	24972
JAガーデン (稲辺2)	2,086	たかすふれあい農園	20882
JAガーデン (加茂川)	773	清流ふれあい農園	1800
JAガーデン (加茂野)	665	さんさん菜園	370
JAガーデン (川合1)	178	安八町貸農園 (中須地区)	1164
JAガーデン (草苗)	806	安八町貸農園 (北今ヶ淵地区)	332
JAガーデン (清水3)	587	もろこし村	6000
JAガーデン (清水2)	860	富加町半布里農園	2326
JAガーデン (下組)	578	ふるさと体験農園	1492
JAガーデン (新池)	600	送木菜園	707
JAガーデン (中富1)	176	さんさん農園	657
JAガーデン (中富3)	453	西田菜園	540
JAガーデン (中富4)	386	比衣菜園	1127



図1：岐阜県内の市民農園箇所

4.2 市街化区域内の市民農園

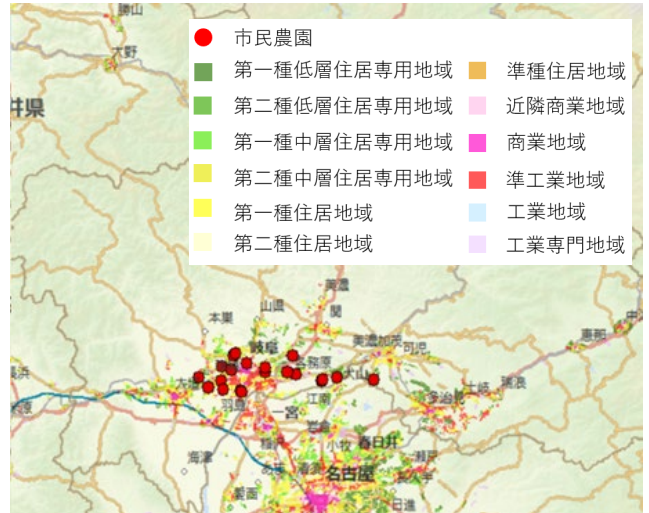


図2：市街化区域内の市民農園箇所

美濃地方の市街化区域内の市民農園は全部で22件ということが分かった。(図2参照) この図を見ると人口の多い岐阜市、各務原市、美濃加茂市に市民農園が多いことが分かった。市街化区域内の市民農園の面積の平均を計算した。計算した結果1467㎡という結果になった。ほかの地域に比べると比較的狭いことが分かった。

4.3 市街化調整区域内の市民農園



図3：市街化調整区域内の市民農園箇所

美濃地方の市街化調整区域内の市民農園は全部で14件ということがわかった。(図3参照)市街化調整区域内の市民農園の面積の平均を計算した。計算した結果2000㎡という結果になった。三つの区域内で一番市民農園の平均面積が広いということが分かった。市街化調整区域内では岐阜市に市民農園が多いことが分かった。

4.4 農用地区内の市民農園



図 4：農用地区内の市民農園箇所

美濃地方の農用地区域内の市民農園は全部で 16 件ということがわかった。(図 4 参照) 農用地区域内の市民農園の面積の平均を計算した。計算した結果 1347 m²という結果になった。三つの区域内で一番市民農園の平均面積が狭いということが分かった。農用地区域内では美濃加茂市に市民農園が多いことが分かった

4.5 カテゴリー分け

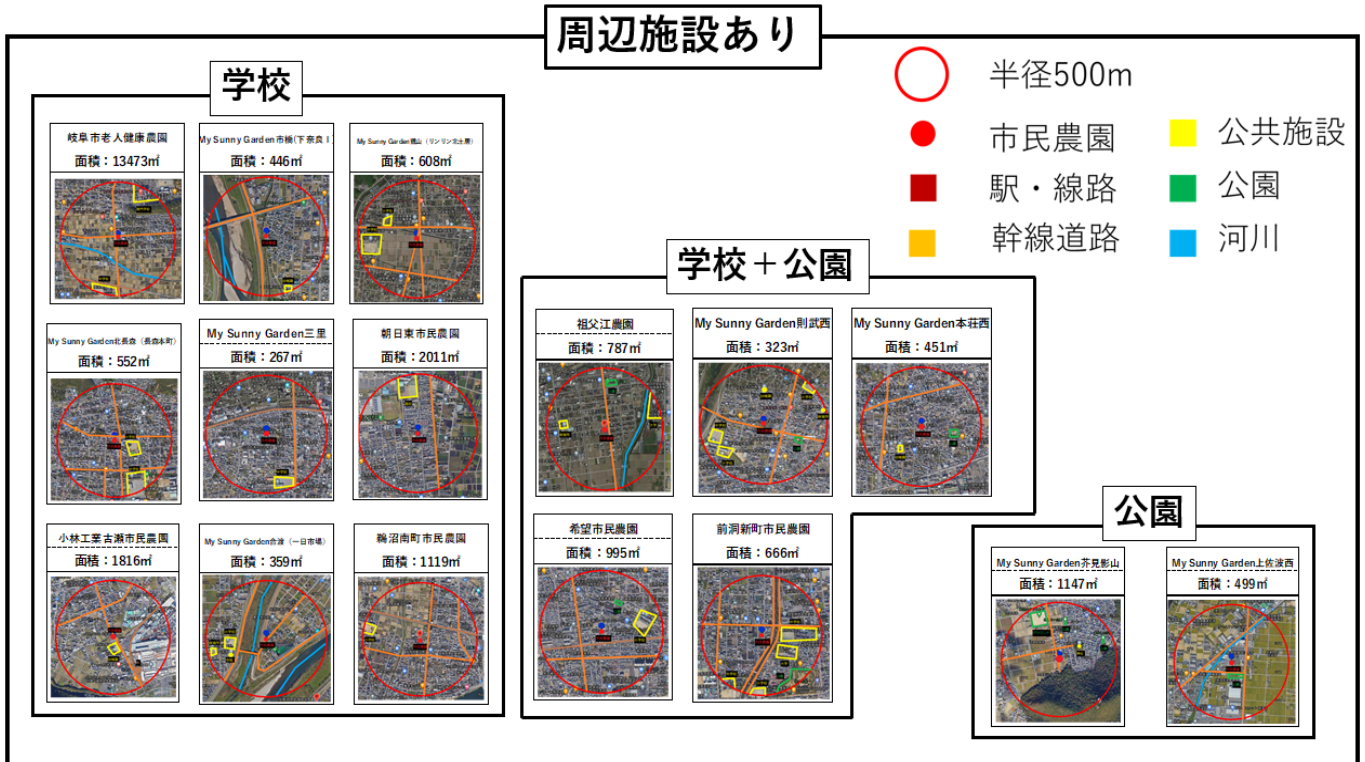
表 2:各区域内の平均面積

区域名	件数	平均面積
市街化区域	22	1467m ²
市街化調整区域	14	2000m ²
農用地区域	16	1347m ²

表 3:各用途地域の件数と平均面積

用途地域分類	件数	平均面積
第一種低層住居専用地域	4	1463m ²
第二種中層住居専用地域	1	787m ²
第一種住居地域	15	752m ²
準種住居地域	1	13473m ²
近隣商業地域	1	267m ²

各区域内の件数と場所を GIS で求め表にまとめた。(表 2 参照) 市街化調整区域の市民農園の面積が一番広いという結果を得た。また各用途地域の市民農園の件数と平均面積の結果を出した。(表 3 参照) まとめた結果、第一種住居地域に一番件数が多いことが分かった。



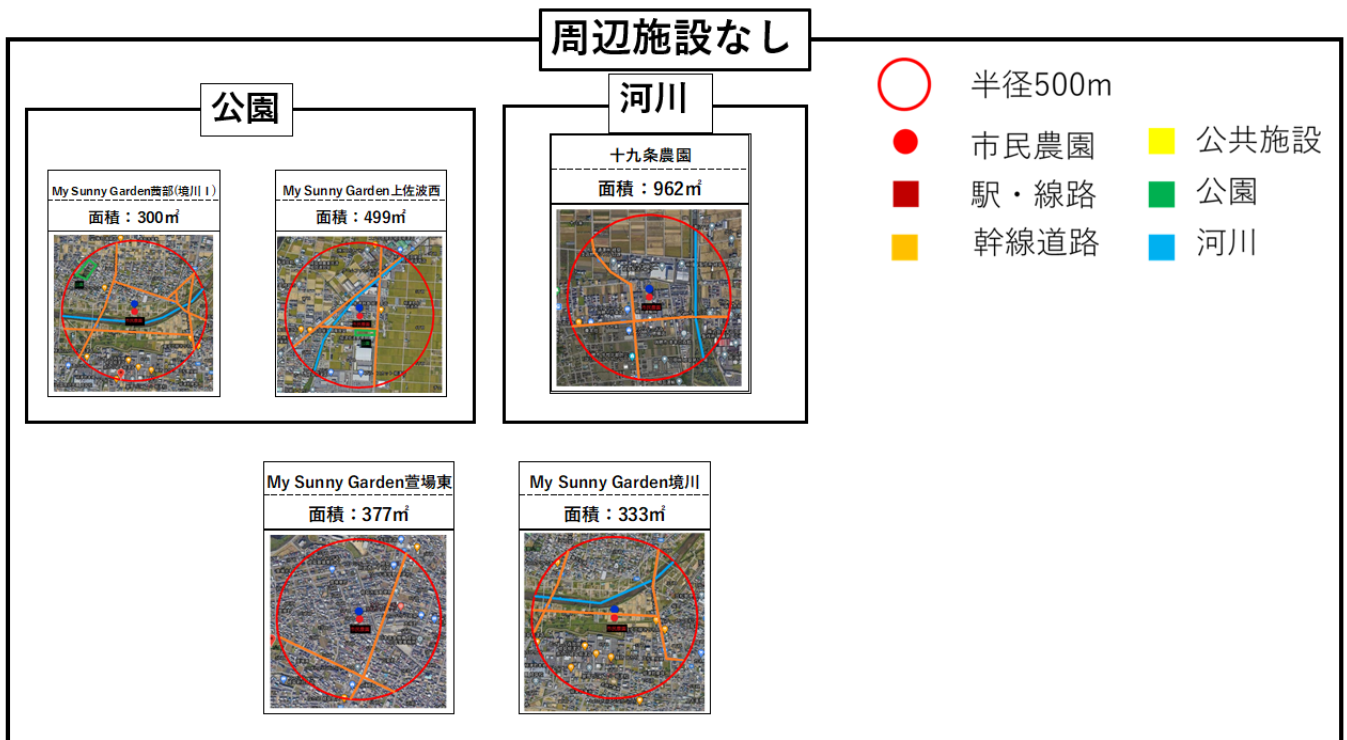


図5：カテゴリー分け

岐阜県美濃地方の市街化区域内にある市民農園は22件ありこの市民農園を類型した。(図5参照) まず始めに学校があるかないかで大きくカテゴリー分けをした。そこから周辺施設ごとにカテゴリー分けをした。現代において、高齢者は自立し生きがいを持つことが求められており、高齢者と子供が交流することで高齢者が農業を教える立場として子供に接することになる。市民農園を通して高齢者の存在価値を確認できる良い機会となる。このことからターゲットを高齢者と子供とし、高齢者が気軽に足を運べる範囲として半径500m内の周辺施設を調べた。交流の場として市民農園が子供から高齢者まで周辺住民が誰でも気軽に集える場所となると望ましい。

5.結論(まとめ)

本研究を通して、周辺施設に学校と公園がある市民農園はポテンシャルが高いと評価した。さらにポテンシャルを上げるにはイベントの充実をさせればよいと考えた。周辺施設に学校だけの市民農園はイベント開催地となる公園がない。だが学校のグラウンドがイベント開催地すればポテンシャルが上がると考えた。周辺施設に公園だけの市民農園は、子供達がいる学校等の施設がないので駐輪場、駐車場の設置、少し遠い子供、親子も市民農園に参加すること

ができ、ポテンシャルが上がると考えた。これらから空き地を利活用して市民農園が交流の場・コミュニティの場になるようなポテンシャルが高い市民農園の条件は二つあり、面積の広さと周辺施設との関係性だと結論付けた。面積が広い、周辺施設との関係性の二つの条件が重なった時その市民農園が交流の場・コミュニティの場となり市民農園が周辺住民同士の支え合いから一体感が生まれ、街を発展する役割を担うことになると考えた。

7.参考文献

- (1)空き地対策の推進について 国土交通省 土地・建設産業局 企画課 著者：田村 英之 (R2.6.20 確認)
<https://www.mlit.go.jp/common/001221285.pdf>
- (2)農林水産省 HP 市民農園について(R2.9.30 確認)
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/index.html
- (3)高齢者と子どもの世代間交流—交流内容を中心に— 著者：金森 由華 発行年：2012年 P69-P77
- (4)高齢者の生活圏と移動手段 著者：佐藤博樹 (R3.1.23 確認)
https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h28/sougou/zentai/pdf/sec_3_1.pdf